

The region agriculture leader of Wakayama prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

2025
11
November

和歌山の 農業士

地域農業をリードする熱き農業者たち

第25号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これから農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】 CONTENTS

<巻頭言>

- 農業士とは！ (和歌山県農業士会連絡協議会 会長 木下 善久) 1
- 「三つの後継づくり」による持続可能な産地づくり (和歌山県農林水産部 農業生産局果樹園芸課 課長 仲 真永) 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 改善を続け、負担の少ない農業を目指す (海南市 指導農業士 笹尾 拓司) 3
- お客様と繋がる農業を目指しています！ (紀の川市 地域農業士 辻本 笑) 5
- 年間を通しての収益化を目指して (かつらぎ町 地域農業士 岡野 成浩) 7
- 私の43年間～明日から何年 (広川町 指導農業士 竹中 宏) 9
- スターチスの品種育成に取り組んで (御坊市 地域農業士 佐藤 公彦) 11
- 省力化、低コスト、秀品率アップを基本に (白浜町 指導農業士 山本 孝一) 13

<農業に懸ける想い>

農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 均一で高品質な野菜栽培を目指して (和歌山市 地域農業士 増田 圭吾) 15
- 就農して17年 (紀の川市 地域農業士 西川 圭亮) 16
- ～13年間を振り返って～ (かつらぎ町 青年農業士 山本 祐示) 17
- 信頼に応え続ける (有田市 4Hクラブ 成川 僚) 18
- 農業は人生 (みなべ町 青年農業士 平野 智也) 19
- 効率的な農業を進め、地域を守ることを目指す (田辺市 青年農業士 坂本 智彦) 20
- 農業はおいしくて、楽しくて、ワクワク！ (串本町 地域農業士 南条 紀子) 21

<県農林大学校生です>

農林大学校1年生の自己紹介&近況報告 22

●農学部園芸学科

安樂 ひなた 上野 暉之 榎本 拓真
川口 郁大 小西 悠登 佐藤 玖海 杉本 陽菜

●農林大学校の様子

＜試験研究レポート＞

- シットウ新品種 ‘ししわかまる’ 高収益栽培のための肥培管理と整枝技術の確立
(農業試験場 栽培部 研究員 広瀬 楓) 25
 - ‘紀州てまり’ の力キ灰色かび病の防除対策について
(果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 大谷 洋子) 27
 - 新たな消毒法「マイクロMIX法」の効果について
(畜産試験場 生産環境部 部長 橋本 典和) 29

＜普及活動レポート＞

- | | |
|---|---------------------------|
| ●若手生産者を中心としたいちご産地の再興に向けた取組 | (海草振興局 農業水産振興課) 31 |
| ●もも産地における新たな病害虫対策と優良品種の育成 | (那賀振興局 農業水産振興課) 33 |
| ●重要害虫果樹カメムシ類防除に対する取り組み | (伊都振興局 農業水産振興課) 35 |
| ●有田みかん産地 産地受入協議会を軸とした新規就農者の確保及び育成支援 | (有田振興局 農業水産振興課) 37 |
| ●クビアカツヤカミキリの防除対策について | (日高振興局 農業水産振興課) 39 |
| ●うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持 | (西牟婁振興局 農業水産振興課) 41 |
| ●いちご産地の維持活性化 やる気のある産地づくり (東牟婁振興局 農業水産振興課) | 43 |

＜地域の逸品 !! ／ こんな技術知ってる？＞

農業士が自慢の技術や地域の隠れた逸品を紹介 !!

- 和歌山市山東地区の特産「たけのこ」 (和歌山市 指導農業士 藪 利昭) 45
 - 体にやさしいこだわり品質 “高野山麓精進野菜” (橋本市 指導農業士 坂口 佳弘) 46
 - 松葉の堆肥で育てる「松野菜」 (美浜町 地域農業土 田渕 秀樹) 47
 - なんたん蜜姫 (さつまいも) (串本町 地域農業土 中正司 ちか子) 48

＜和歌山県からのお知らせ＞

- | | | |
|-----------------|---------------------------|----|
| ● 農作業事故にご注意を！ | (県農林水産部経営支援課 普及班) | 49 |
| ● 収入保険に加入しませんか？ | (県農林水産部経営支援課 組合指導班) | 51 |
| ● 令和8年度学生募集 | (県農林大学校) | 52 |

巻頭言

農業士とは！

和歌山県農業士会連絡協議会

会長 木下 善久



まずは、4月に発生した雹災害において被害に遇われました皆様には、お見舞い申し上げます。また、会員の皆様方におかれましては、農業士会活動のみならず、地域農業のリーダーとしてご活躍をなさっていることに厚くお礼申しあげます。

さてこの度、会長に就任しました橋本市の木下です。微力ではありますが、皆様方のご協力を得て、和歌山県農業の発展に向けて会運営に努めて参りたいと思いますので、宜しくお願ひいたします。本来なら、4年前に会長に就任する予定でしたが、コロナショックにて2年間の活動自粛もあり、今回、会長に就任しました。

本協議会は、各地方農業士会の相互連携や資質向上、後継者育成活動等を通じ、本県農業の振興に寄与することを目的として、昭和54年に発足し今日に至りますが、本県の農業士の会員数は年々減っています。65歳定期制にしていますので、65歳になった時点で退会するのですが、新規に農業士になってくれる人が少ないのが現状です。

巻頭のタイトルを「農業士とは」とさせてもらいましたが、農業士は住んでいる市町村から推薦してもらい、県知事が任命する名誉なものです。勧誘に行っても「何のメリットがあるの？」と言って農業士を受けてもらえません。農業士としてのプライド、県からの情報提供、他地域の農業士との交流などがメリットとして挙げられますが、農業士にならなくても、4Hクラブ、JAの青年部、出荷組織

(選果場、協議会)等、組織はいくらでもあるので、それをメリットとして感じてくれないのが現状です。現在、協議会の中で、何かしら物理的なメリットがないか模索しています。どのようにしたら良いか、アイデアがあれば地区の役員に提案して下さい。協議会にて話し合いをし、行政に伝えます。

最後になりましたが、岡田前会長（まだ、顧問として協議会に残ってもらっています）をはじめ、役員を退任されました皆様方に対して、厚くお礼を申し上げます。ここ数年の異常気象による天災（猛暑、干ばつ、集中豪雨、台風の巨大化）、社会情勢（戦争、コロナショック、トランプ大統領による関税）によって、農業は営みにくくなりました。そのような現状でも、毎日畑に行き、農作業をしなければなりません。今年の夏も暑かったです。これからは、毎年猛暑になるような気がします。皆様、体調管理にはくれぐれも気を付けてください。

会員の皆様方のご健康と、益々のご活躍をお祈り申し上げ、巻頭の言葉とさせて頂きます。

巻頭言

「三つの後継づくり」による 持続可能な産地づくり

和歌山県農林水産部 農業生産局

果樹園芸課 課長 仲

眞 永



農業を取り巻く環境は、従来から言われている人口減少に伴う国内農産物マーケットの縮小や農業従事者の高齢化と後継者不足などに加え、最近では、資材や肥料、燃油などの価格の高騰、気候変動の影響による生産リスクの高まりなど新たな課題が出てきています。

このような多くの要因による影響を受ける中で「持続可能な農業の実現」が強く求められており、そのためには「三つの後継づくり」が必要になってくると思われます。

まず一つ目の後継づくりは農業生産を担う「人」です。

人口の減少による産業間での労働者の奪い合いが始まると、農業従事者の平均年齢は68歳を超え、高齢化と担い手不足がより一層深刻な問題となっています。新規就農者数は増加傾向にあるものの、離農者数がそれを上回っており、農業生産を担う後継者と雇用の確保が必要となっています。

二つ目の後継づくりは、高品質・安定生産、省力化生産が可能となる「優良園地」です。

高品質生産には、優良品種の導入をはじめ、最適な温度・湿度の環境を作るため、みかんのシールディング・マルチ栽培や施設栽培での環境制御装置の活用、安定生産のためには、改植等による園地の若返りやうめ「南高」と開花期が合う授粉樹の導入、耐風性を高めたハウスの整備が重要です。

また、省力化生産のためには、これまで取り組ん

できた園内道の整備や傾斜の緩和などの生産基盤の整備に加え、ドローンによる防除・施肥、ラジコン式草刈り機などのスマート農機が活用できる園地づくりや省力樹形の導入が必要となってきます。

三つ目の後継づくりは、「消費者」です。

国内では人口減少や高齢化により、食市場の縮小が懸念されています。

このような中で、「やっぱり和歌山産でないと」と言う消費者を多く作っていかなければなりません。

そのためには、安全、安心を担保しながら、新たな品目の生産や個性化商品づくりなど、消費者が求める魅力ある農産物を生産しなければなりません。

和歌山県農業を将来にわたり持続可能な強い産業とするためには、これらの「3つの後継づくり」を継続して取り組んでいきたいと考えています。

農業をさらなる魅力ある産業として成長させるため、農業士や関係機関の皆様と積極的な意見交換を行いながら、新たなチャレンジを進めていきたいと思いますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いします。

私の農業

改善を続け、負担の少ない農業を目指す

海南省 指導農業士

笹尾拓司



1. はじめに

私は海南市出身で昭和54年3月県立吉備高等学校を卒業後、1年間果樹園芸試験場での研修を経て就農しました。就農後は海南市4Hクラブに加入し、その後も青年、地域、指導と各農業士を経験しました。我が家は先祖代々続く果樹農家で、明治末期頃に曾祖父が岐阜県から和歌山県に初めて富有柿を導入し、天皇陛下に献上した歴史があります。現在は柿のほかに温州みかんなどの柑橘類や野菜も栽培しています。

2. 農業経営の特徴

私は20代の時に腰を痛めたことをきっかけに、なるべく重いものを持ち運ばなくてよいような経営を目指しています。そのため、モノラックやラケット鉢、フォークリフトと棚を設備した倉庫などを導入して省力化に努めています。機械類は不意の故障を防ぐためにメンテナンスを欠かさず行っています。故障してしまうと修理するまで作業が止まってしまうので予備の部品を常備してすぐに対応できるようにしています。

また、我が家の中は水が湧き出てくる環境があつたため、12年前に水をためられるように工事を行いました。その結果推定1万5千L以上の量を貯水することができるようになり、農業用の水は自分の家で貯うことができています。しかし、山の水が

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	112 a
清見	20 a
ポンカン	15 a
その他柑橘	30 a
柿	45 a
野菜	10 a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	4人 (延べ30日)



家の裏からほ場へ続くモノラック

流れてくるので、大雨の時は警戒する必要があり、今後は配管を広くするなど災害を防げるようになることが課題です。

3. 今後の経営方針

私はどうすれば今より良くなるか、今ある環境を最大限に活かせるか自分なりに考えて経営を進めてきました。これからもそれは変わらず継続していくつもりです。

今の悩みは、年を重ねるにつれて腰以外の部分にも痛みが現れています。最近クローラ運搬車を導入したところ収穫物の運搬がとても楽になりました。体力的にもこれからますます省力化や軽量化が必要になると思いますので、問題点を洗い出し、改善していきたいと思います。

また、最近温暖化の影響なのか、柿の収穫時期のずれや日焼け果が多くなってきており、品目転換も考えています。農業士の活動としてパッションフルーツの栽培に挑戦したときにはうまくいきませんでしたが、その頃よりも暑くなっていますので、パッションフルーツだけでなく、アボカドなどにも挑戦していこうと思っています。

4. 終わりに

私は今年度をもって指導農業士を卒業します。ここまで農業を続けてこられたのは支え合う仲間がいたからです。若い方には自分のアイデアで経営を発展させていくと同時に周りの人との連携や情報共有なども駆使して農業を続けてもらわればと思います。



フォークリフトのための棚を備えた倉庫



貯水槽



クローラ運搬車

私の農業

お客様と繋がる農業を
を目指しています！

紀の川市 地域農業士

辻 本 笑



1. はじめに

父が創業した口バス農園を引き継いで10年目になります。

幼い頃から農家の娘として育ち、その苦労を目にしていましたので「自分は農家を継がないぞ！」とサラリーマンと結婚して家を出ました。

しかし、夫が脱サラし父の元で農業をはじめ、そして父が急逝し、私もしぶしぶ農業を手伝うようになり…今では農業にどっぷりハマり、毎日を畠で過ごしています。

現在、いちじく、かき、たまねぎ、水稻を栽培しています。

2. 農業経営の特徴

まず取り組んだことは、いちじくのブランド化です。

農業の現場に入ってみて驚いたことは、出荷先の規格に合わせて選別すると、完熟で味がのった一番美味しいいちじくが、規格外として扱われていることでした。大型流通では実現できない樹上完熟いちじくを消費者に届けるため、ネット販売を開始しました。輸送の難しさに直面したり、初めての直接販売など、試行錯誤を重ねましたが、経験を積み、独自ブランド「いちじくプリンセス」を立ち上げました。(2022年プレミア和歌山推奨品審査員奨励賞受賞)

たくさんのお客様から喜びの声が届くようになります。それがやりがいへと繋がっています。

農業経営の概況

○作付品目と面積

いちじく	30a
かき	45a
たまねぎ	400a
水稻	200a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	10人



はじめまして 口バス農園です

和歌山県紀の川市で

いちじく・柿・たまねぎ・お米を減農薬栽培で育てています。

季節ごとの旬の味をお届けします！



HP

3. 今後の経営方針

「Farm To Table」という言葉があります。農場（生産者）から食卓（消費者）へ直接、新鮮で安全な作物を届けるという食の流れを意味しているのですが、それを意識して食材を調達してくださる方はどれほどいらっしゃるでしょうか。昨今の気候変動、米騒動、農業関連の物価高騰、人材不足、離農問題。農業はこれから新しい局面に入っていくと思います。よいモノを作ることは当然一番大事ですが、毎日の食卓を支える日本の農業に消費者がもっと興味をもつことも大切だと考えます。SNS等で想いや日々の農作業風景や農作物の成長過程を発信することにも力を入れて、選ばれる農家を目指したいです。



かき園



たまねぎ園



コンバインで稲刈り



いちじくプリンセスを手に夫婦で

4. おわりに

今、農業が楽しいかと聞かれると、やりがいのある仕事ですが、楽しいことばかりではありません。次々と新しい問題や課題が出てきます。

特に困っているのは人材不足。植え付けをしても収穫の時に人材が確保できるか保証がなく、不安なこともあります。でもひとつひとつ丁寧に乗り越え、これから食の未来を担っていけたらと思っています。

最後に、農業に従事している女性のみなさん！トラクター、田植機、収穫機、機械に乗りましょう！鍬を振ったり苗箱を運ぶより、体力的に断然女性に優しいです。

私の農業

年間を通しての収益化を目指して

かつらぎ町 地域農業士

岡野成浩



1. はじめに

私は高校卒業後、神奈川県にあるステンレス製造会社に就職し、そこで15年間勤めていましたが、両親が歳をとってきた事もあり地元かつらぎ町に帰ってきて36歳の時に就農しました。小さいころから両親について畑に行っていたこともあり、もともと農業をしたいなという思いは強く今年で農業に従事して6年になります。

2. 農業経営の方針と特徴

我が家では、仕事量の分散や、年間を通して収穫を行い、収益が出せるように、果樹から水稻と幅広く栽培しています。

品目でもかきに関して、従来は刀根早生に集中していましたが、早期集荷による収益増加を考え、中谷早生を高接ぎしたり、紀北川上早生を導入したりしています。柑橘も同様に一つの品種に集中しないように早生から中生、晚生、中晩柑と収穫出荷できるように幅広く栽培しています。

売り先も多様でかきはJA、柑橘は直売所、もも、すもも、キウイフルーツは紀ノ川農業協同組合、米は直売りなど収益やコストを考えながら販売先を選別しながら売っています。柑橘の出荷先はJAのみにしていましたが、やっちゃん広場ができるのを知ってすぐに販売先を変更しました。箱詰めや袋詰めなどの作業が増えましたが、もちろん収益も

農業経営の概況

○作付品目と面積

かき	70a
柑橘	3.3a
もも	10a
すもも	10a
キウイフルーツ	20a
水稻	35a
○労働力	
家族	2人



柑橘の摘果作業



ハンマーナイフモア

増え、なにより、買っててくれた方々から「おいしかったよ」といったうれしい感想が聞けたことでやってよかったなと実感することができました。

また、労働改善の一環としてハンマーナイフモアを導入しました。キウイフルーツでは除草剤を使えず、ももでは除草剤をなるべく使用しないようにしているため、従来、草刈り作業は刈払機を使ってい

ましたが、ハンマーナイフモアに変えて作業時間が2分の1まで減少し、何より腰への負担が大幅に減少しました。

今は両親とともに農業をしていますが、いすれは一人ですべてを行っていかなければいけないので、昨今の人手不足という現状の中で臨時雇用についてどう対策していくかが今後の課題です。



かつらぎ町を一望できる柑橘園



やっちゃん広場向けの包装

3. おわりに

近年、夏場の高温などの異常気象により柑橘では浮皮、かきでは着色不良などの影響がみられ、従来とは異なる問題が出てきているなど感じています。さらに、昨今の物価高で農業資材も高騰しており、農業経営の厳しさを感じています。ですが、自分の作った果物や米を買って、食べてもらった方々から「おいしい」と言ってもらえるように、いいものを今後も継続して作っていきたいと思っています。

農業に従事して日が浅く、技術もまだ満たないところがありますが、一番近くにいる師匠（父）の技術を受け継いでいき、様々な問題を乗り越えながらおいしい果物や米をみんなに届けていきたいです。

私の農業

私の43年間～明日から何年

広川町 指導農業士

竹 中 宏



1. はじめに

私は高校卒業後、当時大分県にあった国の常緑果樹研究所で1年間研修し、トラクターの免許も取得しました。そのことが現在の農業経営に役立っています。

研修終了後昭和56年に就農し、柑橘と水稻栽培を引き継ぎました。就農当時ははっさく、いよかん、宮本早生等を栽培していましたが、現在はゆら早生、宮川早生、田口早生、中生等に改植しました。

今後は後継者に託します。

2. 農業経営の特徴

就農後、4Hクラブ、青年農業経営者協議会、農業士会、JAの生産部会へも参加し、活動を通じて仲間づくりや技術研鑽を行ってきました。また、県職員の方々とも知り合いになり、その縁で38歳の時、県の事業を活用してオーストラリア、ニュージーランドに半月間留学しました。ホームステイも経験し、当地の農業全般について学び、その後オランダエンドウやナバナなどの野菜栽培にも取り組みました。留学は良い経験になったと思います。

広川町でも高齢化が進んでいます。そのような中、水稻を中心に農地を借りてほしいとの要望があり、農地中間管理機構を通じて水稻130a、かんきつ園50aを借り上げ栽培しています。まだまだ借りてほしいとの要望もありますが、我が家ではすでに手いっぱいの状態です。

私が営農している中山間地では、イノシシ、シカ、サル等鳥獣被害がひどく、また平坦園地でもモグラが多くなり、そのモグラ穴がみかんの発根の妨げに

農業経営の概況

○作付品目と面積

柑橘	
極早生温州	55 a
早生温州	62 a
中生温州	56 a
はるみ	15 a
レモン	25 a
水稻	
ゆら早生	165 a
○労働力	
家族	3人

なっています。鳥獣害対策がとても大変な作業となっています。

3. 今後の経営方針

高品質生産を目指し、田に山土を入れゆら早生、田口早生、中生みかんを植えて栽培し、消費者に良いものを届けたいとの思いで出荷しています。またレモンでは、2、3、4月出荷に加え袋掛けレモンとして5月出荷にチャレンジしています。

現在、異常気象による大雨災害、温暖化、また後継者不足等様々な問題があります。柑橘では高温や雨不足で日焼け果が多く発生しています。今後、高温対策を考えていきたいと思います。水稻では、夏場の高温で品質が低下しているため、高温に強い品種に変えていくことを模索しています。



みかんの摘果作業



レモン栽培



水稻栽培状況



4. おわりに

就農して43年になりこれからもいろいろな問題を克服するため、ドローンや選果機等の機械化も必要になってくるかもしれません。あと何年農業ができるかわかりませんが、よりよい農業を目指して頑張っていきます。

最後に、今後とも県農業水産振興課の皆さんのご指導よろしくお願いします。

私の農業

スターチスの品種育成に取り組んで

御坊市 地域農業士

佐 藤 公 彦



1. はじめに

私が就農したのは昭和 61 年で、高校卒業後すぐに就農しました。

私が住んでいる御坊市名田町は、今でこそ花きの大産地を形成していますが、かつてはえんどうなどの野菜の産地でした。

私がちょうど就農する頃から宿根かすみそうの栽培が盛んになりつつあり、我が家もえんどうから宿根かすみそうに転換しました。

宿根かすみそうは 2 年ほど栽培しましたが、たまたま近所の方から余ったスターチスの苗をもらつて 5a ほどのハウスで栽培したところ、宿根かすみそうでは収穫適期が短いのに対してスターチスは長いことが分かり、当時宿根かすみそうの単価が下落傾向にあったこともあり、収穫期の労力分散や規模拡大が可能なスターチスを本格的に導入しました。

2. 農業経営の特徴

23 歳で結婚したことを契機に、親から経営を継承し、60a あったハウスを徐々に拡大し、今では 110a で栽培しています。

スターチスは、組織培養により大量増殖された苗を購入するのがほとんどですが、苗代が高く経費の 3 割強を占めるのが大きな課題です。

このため、知り合いの大学教授の勧めで最初は 4 人のグループでオリジナル品種の育成に取り組みました。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
スターチス	110a
ヒマワリ	50a
すいか（小玉）	40a
クラスペディア	5a
○労働力	
家族	5 人
臨時雇用	3 人

そんな中、栽培している種子系品種のなかから開花が早く、高品質で採花本数が多く、形質のよい淡い紫色の優良個体を発見し、グループで試験栽培を重ね「紀州スター」と命名し、平成 18 年 2 月に品種登録されました。

また、紀州スターの中から濃い紫色の変異個体を



御坊市名田町のハウス群

発見し、「紀州パープル」と命名して平成23年3月に品種登録されました。

これらの2品種を育成したこと、培養増殖を委託した業者から安価なビトロ苗（培養容器に入った苗）を購入することができるようになり、それを自分で育苗することで苗代を安く抑えることができました。また、栽培したい人が増えてきたため、グループで手分けしながら育苗し、種苗メーカーよりも安い値段で提供しました。ただ、良質な苗を提供しないといけなかったので、気苦労が絶えませんでした。でも、その甲斐があり、2品種とも産地の主力品種として位置付けられたことには、感慨深いものがありました。

3. 今後の経営方針

スターチスは主に仏花としての需要があるため、年内から春の彼岸までは単価が高いのですが、それ以降は気温の上昇とともに出荷量が増えて暴落するため、春の彼岸以降はスターチスの栽培を20aまで減らし、後作でヒマワリ50aと小玉すいか40aを栽培しています。

長男が5年前に大学卒業後すぐに就農してくれ、次男も手伝ってくれることで、これ以上規模を増やすことなく、今ある面積で栽培効率を高めることができます。

今後は、新たに取り組みたい品目がある一方で、長男には労力分散等、一步先を見据えた経営力を身につけさせて、できるだけ早く引き継ぎたいと考えています。



苗の管理

4. おわりに

近年は、気候変動が激しく、新たな生理障害や病害虫の発生が多く、栽培管理に苦慮していますが、スターチスだけでなくヒマワリや小玉すいかも品質向上と安定出荷を行うことで市場から信頼される産地にしていきたいと考えています。

そのためには、後継者や地域の担い手が必要になりますが、やりがいがあって魅力のある農業経営をしていることを自ら示すことが重要だと考えています。幸い、御坊市名田町では、若い人が多く就農していますので、みんなで相談しながら、産地を盛り上げていってもらえればと思っています。



育成した「紀州パープル」

私の農業

省力化、低成本、 秀品率アップを基本に

白浜町 指導農業士

山 本 孝 一



1. はじめに

私は高校卒業後、大阪で3年、地元で6年会社勤めをし27歳から就農しました。

20年ほど前から地域で圃場整備が進み、農地借りられる状況になって来た時、息子2人に「将来農業をする気はあるか」と聞いたところ、長男が手を挙げてくれたので徐々に耕作面積を増やしてきました。

長男も高校卒業後、3年間会社勤めをし、その後就農してくれています。

2. 農業経営の方針と状況

水稻は圃場整備の出来た農地、野菜は圃場整備の出来ていない水はけの良い農地へ作付けを行っています。

父の言葉で「いい物を作ればお金は後で付いてくる」を忘れないように、省力化、低成本、秀品率アップを考えながら作業を行っています。

特にとうもろこしはレタスの収穫が終わったビニールトンネルをそのまま利用し、種子を直播することにより、作業の省力化と苗のストレスを極力おさえるようにしています。

とうもろこしは基本1株1本収穫とされていますが、我が家では1株2本収穫しています。目標は2Lサイズ2本取りですが、まだ半分というのが現状です。

水稻はれんげを播き、化学肥料の施用量を半分にして栽培しています。

農業経営の概況

○作付品目と面積

水稻	600a
レタス	60a
とうもろこし	50a
さつまいも	20a
○労働力	
家族	2人
(妻は出荷作業時)	

昨年からはさつまいもの植付けを増やし、焼きイモの販売にも挑戦しています。

3. 今後の経営方針

作物については気候変動に強い品種、技術など県、JA、種苗会社などから情報をもらいながら進めていきたいと思います。

近々経営は息子に替わりますが、今後も省力化、低成本、秀品率アップを目指し経営を維持していってもらえたたらと思います。

4. おわりに

私は農業士会の会議にもあまり出席することが出来ませんでしたが、農業士の方々からこれまでたくさん的情報をいただきました。

私の地域では最近、地域外からの新規就農者が増

えてきています。その中で、農地が地域内にあっても、地域外に住んでいる新規就農者の場合、共同作業への参加が難しい等、地域としての将来に心配な

点も出てきています。

今後は地域の兼業農家とも協力して、農地を守っていきたいと思います。



精米・袋詰め



今年の新米



レタス栽培



レタス ビニールトンネル



発芽したとうもろこし



とうもろこし（ゴールドラッシュ）

農業に懸ける想い

均一で高品質な野菜栽培を目指して

和歌山市 地域農業士

増田圭吾



1. はじめに

私は平成25年に和歌山県農業大学校を卒業後、(公社)国際農業者交流協会が実施する海外農業研修で渡米し、アメリカ本土とハワイ島での研修を通じて野菜栽培に関する実践的な技術や知識を身につけ、帰国後すぐに就農しました。

2. 農業への想い・取り組み

営農地域は紀の川河口部にある砂地農地で両親が営んできたしあがと後作のこまつな・ほうれんそうの生産を引き継ぎました。

農業で私が一番大切にしているのは均一で高品質な農作物を作ることです。

例えば、均一で高品質なものを栽培すると、廃棄や規格外品が減ることで収益性が高まり、選別や調整作業が楽になるので人手も少なくなり人件費の削減もできます。

販売面においても、今時の多岐にわたる多様な販売をせず、年間を通じてJAに出荷することで長期的に安定した経営ができます。

今後は冬場の空いた時間を活用するために新たな品目としてブロッコリーの栽培にも取り組み、年間を通じた労働時間の均一化を目指しています。

また、私の地域では、比較的若い農業者も増えており、日々の生活や仕事、仲間とのコミュニケーションを通して切磋琢磨することで高品質野菜の生産産地として地域農業の発展に貢献したいと思います。

農業経営の概況	
○作付品目と面積	
しょうが	80a
こまつな	30a
ほうれんそう	50a
ブロッコリー	30a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	5人



ハウスしょうが



収穫後の土壌消毒

農業に懸ける想い

就農して 17 年

紀の川市 地域農業士

西 川 圭 亮



1. はじめに

私の家は専業農家で、祖父が温州みかんと水稻を栽培していました。また、兼業農家の父が体調を崩し早く他界したので、20歳で就農しました。

就農をきっかけに、水稻の一部をいちごに転換して現在に至ります。

2. 農業への想い・取り組み

紀の川市の貴志川地区では、昔からいちごの栽培が盛んで、「いちごを栽培したい！！いちごなら農業でも食べていける！！」という思いが強くなり、栽培を始めました。

最初は 10a からスタートしましたが 30 歳で 25a へと増やし、品種は県育成品種「まりひめ」のほか、「さちのか」、「紅ほっぺ」を栽培しています。

出荷先については、年内はJAに出荷をしていますが、1月頃からは、観光農園をオープンし、ゴールデンウィーク頃までいちご狩りを楽しんで頂けます。

みかんは、減農薬・有機肥料で栽培を行っており、「(株) 紀伊半島エリア再生産組織 (K A R P)」というグループを通じて全量生協に出荷しています。

就農して 17 年がたち、温暖化など気候の変動や、農業に係る情勢も大きく変化していますが、その中でも雇用の問題が難しいと痛感しています。昨

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	75a
水稻	30a
いちご	25a
○労働力	
家族	2 人
雇用	2 人

年祖父が亡くなり、人手不足に直面しました。労働配分や栽培品目の見直しを検討しながらこれからも農業を頑張っていきたいと思います。

最後に、いちご狩りの時期にはぜひ貴志川へお越しください！！



高設栽培のいちご園



みかん園



観光農園HP

農業に懸ける想い

～13年間を振り返って～

かつらぎ町 青年農業士

山 本 祐 示



1. はじめに

私は、和歌山県農林大学校を卒業後、在学時に研修先の農家さんから海外研修の体験談を聞いてアメリカに1年半ほど留学し、地元かつらぎ町で農家になりました。

学生の頃、私は漠然と父の後継者として柑橘の苗木農家をやっていくものと考えていました。しかし、農林大学校で様々な果樹の栽培を体験して収穫の楽しさを学び、また、父とは異なる農業もしていきたいという考え方あって、果樹農家の道を選び、今年で13年目となります。

2. 農業への想い・取り組み

農業を始めた当初に比べ、課題は減ってきましたが、農業規模を拡大するにあたっての人手不足、作業の効率化が最近の課題です。少しでも効率化を図るために借りる畑は平地の場所を選んで、耕耘機を使って園内道を整備したりするほか、選果機を一新する等改善を続けています。

また、父の苗木業も手伝っており、台木のカラタチを種から育て、様々な柑橘を接木して1年から2年生の苗を出荷しています。柑橘の中でもゆら早生の苗木は日焼けによる葉の黄色化が起こりやすく、品質に大きく影響します。ここ最近、異常気象の影響か葉が黄色くなる苗が増えてきたので、日よけとしてソルゴーを植えるよう提案し、今年から実証栽培中です。

今後も、果樹の作付け面積拡大や品質向上による高単価での販売を目指すと同時に、苗木栽培に関し

農業経営の概況

○作付品目と面積

柑橘	100a
かき	70a
スモモ	30a

○労働力

家族	2人
臨時雇用	5～6人

ても父との衝突はありますが、作業の効率化など協力して頑張っていきたいです。



柑橘畠



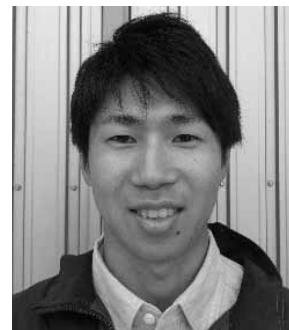
ソルゴーの日よけ（苗木の消毒作業中）

農業に懸ける想い

信頼に応え続ける

有田市 4Hクラブ

成 川 僚



1. はじめに

温州みかんの生産と販売を行っており、江戸時代から続く「宗兵衛」の屋号は私で19代目になります。中学生の頃から、収穫などの手伝いをしてきましたが、本格的に携わるようになったのは、大学卒業後に有田市に帰郷してからです。

2. 取り組み

早生温州のみを取り扱っており、収量は少ないのですが、高単価を目指し、品質・食味に徹底してこだわって作っています。様々な技術や工夫が代々引き継がれており、特に剪定は、親から教わった技術の中でも習得が難しく、5年以上を要しました。温州みかんは隔年結果が起こるのですが、毎年の収量が一定になるように剪定をしています。収量が安定することで、品質も安定しやすくなるので、年間の作業の中でも、剪定は時間をかけており、2～3か月をかけて丁寧に大切に実施しています。他にも、収穫は、樹毎に糖度を確認してから行っており、商品価値を下げる事のないよう気を配っています。

市場関係者からは宗兵衛みかんは‘既製品’と称されることがあります。青果物に対して、このように表現されることは、気候等の影響に左右されることもなく数量と品質が維持できている証で、長年かけて築き上げた信頼関係の賜物と感じており、誇らしく思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	210a
早生温州	
○労働力	
家族	6人
臨時雇用	6人

3. 農業への想い

近年の気候変動、気温の上昇や、雨風の時期が変わってきたことで、日焼け果や風擦れなどが増えてきています。すべてを見た目が綺麗なみかんにすることが難しくなっている中で、傷があっても価値ができるように食味にこだわって、みかん1つ1つの価値を大事にしたい、少しでも高く売れるように考えて、長い年月を経て信頼を得てきた「宗兵衛」という名に恥じぬように取り組んでいきたいです。



樹園地

農業に懸ける想い

農業は人生

みなべ町 青年農業士

平野智也



1. はじめに

私は3人兄妹の長男として産まれた時からうめ農家の子として育ってきました。

以前家の仕事は炭焼き、はっさく作りなどを経て祖父の代でうめ栽培を始めたと聞きました。

自分自身は高校卒業後一年半ほど隣町の工場で働いた後就農しました。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	200a
水稻	30a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	7人

2. 農業への想い・取り組み

幼少期から長男の宿命で家の家業を継ぐのだと思い、且つ継がなければならないと言い聞かせられながら成長してきました。高校卒業後就職したのはそんな固着した思いに対しての僅かな反発でした。しかし労働環境などから一年半で辞めてしまい、どうせ家業を継がなければならない思いもあったので就農させてもらいました。

親の下で働く環境は気楽なものでしたが、2年後に父親が他界し状況は一変します。その頃に母親の身体も不調になり始め、仕事の段取りすら父親が居ないため分からなくなります。そんな中、まだ現役だった祖母に知恵をもらい周りの人に助けられ、それからは農業と向き合い、数え切れないほど失敗や

後悔をしながらうめ作りと戦っていました。

いつからか戦っていたのが共に歩めるようになってきました。それからと言うものの先の事を考えられるようになり、効率や生産性、この特殊な産地でどう先祖代々継承された農業を維持継続していくのかと日々考えるようになりました。

これからは効率も良く作業性も良い畑作りを目指して楽しく仕事出来るように努力していきます。漠然とした思いですが、次世代に梅作りを残して産地継承していきたいと思います。



収穫期のうめ畠



うめ干の選果作業

農業に懸ける想い

効率的な農業を進め、地域を守ることを目指す

田辺市 青年農業士

坂 本 智 彦



1. はじめに

私は、高校卒業後和歌山県農業大学校（現・和歌山県農林大学校）へ進学しました。

学校ではみかんを専攻し、栽培について学びました。卒業後は、かつらぎ町で就職し、3年間勤めました。祖父が高齢となり、実家の農業を継ぐために仕事を辞め就農しました。

我が家では祖母、父、母、私の4人で仕事をしており、農繁期は臨時雇用で他の人にも手伝ってもらっています。

2. 農業経営への想い・取り組み

栽培品目は、極早生、早生温州、ポンカン、うめは南高を中心に栽培しています。私が就農して間もなくみかんの園地を購入し、栽培面積が増えることになりました。

近年農業者の高齢化や農業人口の減少により耕作放棄地の増加、夏の高温、雹被害などの自然災害や鳥獣害が多く発生しています。農業を始めるまでは、気づかなかつたことが多くあり、不安になる事もあります。

鳥獣害を少しでも減らすために罠の免許を取得し、

農業経営の概況

○作付品目と面積

柑橘類	200a
うめ	100a

○労働力

家族	4人
----	----

同じ地域の農家で罠の免許を持っている方々が地域をないがしろにできないという思いで結成した「ないがしろ団」の仲間に入れてもらい、お互いに協力しながら被害の軽減に頑張っています。一人では無理なことでも仲間と一緒に取り組むことでできていくこと、横の繋がりの大切さを感じました。

現在、うめ、みかん共に改植を行っています。祖父の代に植えた木が老木となり年々枯れたりしてきました。園地ごとに品種をまとめたり作業しやすいように木を植えたりと、今後の効率などを考えて改植に取り組んでいます。

農業を取り巻く現状は厳しく感じますが、地域の人たちとの繋がりを大切に農業に取り組んでいきたいと思います。



温州みかん園（成木）



改植したみかん園地



梅園地

農業に懸ける想い

農業はおいしくて、楽しくて、ワクワク！

串本町 地域農業士

南条紀子



1. はじめに

農業との出会いは、東京で会社員をしていた頃。市民農園で初めて自分で作った野菜を食べ「収穫したての野菜ってなんておいしいんだろう」と感動したことです。もっと本格的に農業をしたいと家族を説得し、1年間神奈川県の農業大学校で野菜づくりを学び、生まれ育った串本町に戻り就農しました。11年前の40歳の時でした。

2. 農業への想い・取り組み

当時から、当地域は過疎化が著しく放棄地も年々増えていました。このような地域でどんな農業をしたらいいのか。出てきたキーワードは、「楽しい」「おいしい」「人が集まる」でした。

もともと、母が地域の人々とともに、自分たちが作った野菜を持ち寄って倉庫の前で軒下販売をしており、まずは私も参加させてもらうことに。お客さまに朝採れの新鮮野菜を多品目の中から楽しんで選んでもらえたらと思い、年間50種類以上の季節の野菜を栽培し始めました。当時は馴染みのなかったズッキー



収穫した夏野菜



収穫前の水稻

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	60a
露地野菜	50a
○労働力	
本人	1人

ニやのらぼう菜といった野菜も並べるように。今ではすっかり定着し、人気野菜になっています。

また、就農3年目に軒下販売をしている倉庫を農家カフェに改装し、地域の方々が集えて、野菜たっぷりのランチを食べていただける場所をつくりました。

しかし、年々田畠の面積を増やしてきたので両立が大変になり、3年前にカフェを譲り、農業に専念することに。おいしい旬の野菜を年間通して販売するため、何をいつ、どのくらい栽培するか、どんな品種を育てたらよいかなど、試行錯誤の毎日です。

就農して11年。私にとって農業は今でも「ワクワク、楽しい」ものです。もちろん経営なので、失敗して落ち込んだり悩んだりすることも多いです。しかし、土づくりやそれぞれの野菜の特質、栽培管理、肥料のこと、気象のこと、農業機械のことなど学ぶことが多く、全く飽きることはあります。これからもお客さまに「おいしかったよ」と言ってもらえるように栽培技術を磨くとともに、農業への想いをもった若い世代へどうやったら農地を継承できるかも考えていきたいです。

県農林大学校生です。

～農林大学校1年生の自己紹介＆近況報告～

農学部 園芸学科



安 樂 ひ な た

園芸学科野菜コースの安樂ひなたです。私は白浜町出身で、調理師として成長するために農林大学校に入りました。

私は高校で調理師免許を取得しました。食材そのものについての知識が不足していると感じていたので、食材である野菜のことをもっと知り、調理に役立てたいと思い入学を決めました。

将来の夢は、調理と農業をかけあわせて、自分の店を持つことです。そのために、農大で野菜の品種や栽培方法などについて学び、自分の将来に役立てられるよう、座学と実習の両方を頑張っていきたいと思います。

私は紀の川市出身で、高校は紀北工業高校に通っていました。家は野菜と果樹を栽培している兼業農家です。

農林大学校に来た理由は高校で学習したエンジンの構造や外し方・付け方などを農業機械にもいかせると思ったからです。また、農大では野菜コースを専攻していく野菜の1つ1つに様々な栽培方法があり、どの方法で栽培するとより多くの量を収穫できるかを知ることが出来ました。

卒業後は、農大で学んだ知識を使って農業を支える仕事に就きたいと考えています。



上 野 暢 之

私は有田川町出身の榎本拓真です。

和歌山県農林大学校の1年生で果樹コースです。私が農林大学校に入学した理由は、家がみかん農家で、農業の基本的な技術などを学ぶためです。

農林大学校では単位や資格を取得できるように勉強を頑張りたいです。卒業してからは、農業生産法人などの農業系の企業に就職しようかなと思っています。将来的には家業であるみかん農家を継ぎ、専業農家として頑張りたいと思っています。

まずはこの二年間、しっかり学び一人前の農家になれるように頑張りたいです。



榎 本 拓 真

今年、和歌山県農林大学校に入学した川口郁大です。出身地は有田川町奥地区です。

私の実家はみかん農家なので、農林大学校ではみかんのことをよく学び、将来の仕事に役立てたいと思っています。私は卒論でシールディングマルチについての研究に取り組んでいるのですが、作業の一つ一つが大変で、ただ穴を掘るだけで一日を費やすことになりました。私の実家でもシールディングマルチの導入を検討しているので、この学校生活でノウハウを身につけて実家での導入に役立てられるよう、日々努力していきたいと思います。

また、資格についても、危険物取扱者や毒物劇物取扱者といった資格を取り、農業以外の仕事にも可能性を広げたいと思います。



川 口 郁 大



小 西 悠 登

N高等学校出身の小西悠登です。僕の祖父はみかん農家をしており、卒業後は祖父の後継者として、みかん農家を継ぐつもりです。

農林大学校では、肥料や農薬などについて学び、みかんを中心栽培技術を身につけたいと思っています。また、資格もなるべくたくさん取得したいです。フォークリフトや農業簿記などの資格を取り、いつでも祖父に農業を任せてもらえるようになりたいです。

基本的な技術や知識から少しづつ学び、自分でも成長を感じられる充実した2年間にていきたいと思います。

私は上富田町出身で、家は非農家のため農業は全くの初心者です。

農林大学校に入学しようと思ったきっかけは、小さいころから果物が好きで、自分で栽培してみたいと思ったからです。そのため、私は果樹コースを専攻しています。将来的には、地元で就農して柑橘類やぶどうをつくりたいと考えています。

在学中は積極的に資格の取得に励みながら、農業のノウハウをたくさん学びたいと思っています。農大に来てからは農業の大変さを実感するばかりですが、毎日を楽しみながら全力で頑張りたいと思っています。



佐 藤 玖 海



杉 本 陽 菜

私は、橋本市出身で紀北農芸高校を卒業しました。

高校入学までは農業についてあまり知らなかった私ですが、紀北農芸高校に入り農作物栽培の楽しさを知り、卒業後でも農業に携わりたいと思い農林大学校に進学を決めました。

現在は、花きコースを専攻しており、日々楽しんで実習を行っています。

将来については、まだはっきり決まっていませんが、農業に関わるところで働きたいと思っています。今後に活かせるような資格を取れるように勉強も頑張ります。

農林大学校の様子

【試験研究機関等で研修】

農林業に関する最新の研究内容や事業内容について学ぶため、県内の試験研究機関5か所、農林大学校林業研修部、農林大学校就農支援センター、中田食品株式会社を訪問した。

研修先では、現在取り組んでいる研究内容や事業内容等について説明を受け、ほ場や施設の見学を行った。



ほ場の見学（かき・もも研究所）



実機を使った講習

【刈払機取扱作業者安全衛生教育】

農作業において雑草対策は重要な作業の一つであるが、農業者への負担も大きい。作業中の事故防止のため、刈払機の正しい使用法・適切な整備点検等について受講した。

特に、刈刃による事故が発生した場合、重篤なケガにつながるということを改めて確認できた。



和農大集合写真



学校での演習の様子

【大型特殊自動車（農耕車限定）運転免許試験を受験】

農林大では、トラクターの運転技術習得を目的に演習を実施している。到達目標として大型特殊自動車（農耕車限定）運転免許取得を目指しており、今年度受験した13名は全員合格した。

試験研究レポート

REPORT

シシトウ新品種 ‘ししわかまる’ 高収益栽培のための肥培管理と整枝技術の確立

農業試験場 栽培部 研究員 広瀬楓

1. はじめに

本県では、シシトウのオリジナル品種 ‘ししわかまる’ を育成し、令和7年6月に新品種として登録されました。‘ししわかまる’は、辛味果実が全く発生しない品種として、市場から高い評価を受けており、県内の産地に普及しつつあります。しかし、‘ししわかまる’は、慣行品種 ‘葵しとう’ と同じ栽培方法（窒素施用量 30kg/10a、無整枝栽培）では草勢が弱くなり、収量や品質が低下する問題がありました。そこで、当試験場では、令和4年から収量や品質の向上を目的とした栽培技術の確立に取り組みました。

2. 肥培管理について

窒素施用量 60kg/10a 程度とすることで、可販果（秀品および優品）収量は 6.2t/10a となり、「葵しとう」とほぼ同等となりました（図1）。

緩効性肥料を用いた全量基肥、基肥に有機配合・追肥に緩効性肥料を用いた追肥1回施用、基肥および追肥に有機配合肥料を用いた追肥2回施用のいずれの施肥方法でも、可販果収量や可販果率（総収量に占める秀品+優品の割合）はほぼ同じでした。しかし、追肥回数が多いほど追肥で施用した分の肥料が土壤に残る傾向がありました（表1）。

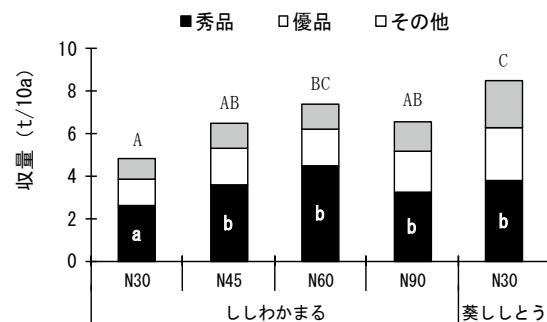


図1 施肥量が規格別収量に及ぼす影響

収穫期間：令和4年5月27日～10月28日
アルファベット大文字は総収量、小文字は可販果（秀品+優品）収量において異文字間に5%水準で有意差有り（Tukey-Kramer法）。

表1 施肥方法が ‘ししわかまる’ の収量や栽培後の土壤養分量に及ぼす影響

施肥方法	可販果収量 (t/10a)	可販果率 (%)	無機態窒素 (mg/100g)	可給態リン酸 (mg/100g)	交換性塩基 (mg/100g)		
					石灰	苦土	加里
全量基肥	6.66 a	80.6 a	11 a	73 a	168 a	27 a	77 a
追肥1回	6.22 a	79.3 a	67 b	74 a	165 a	25 a	57 a
追肥2回	6.14 a	77.9 a	66 b	83 a	230 b	30 a	127 b

全量基肥：ハイパーCDU長期とPK40号で窒素：リン酸：加里=60:45:45kg/10a施用。
追肥1回：ハイパーCDU長期と有機配合肥料で窒素：リン酸：加里=60:48:45kg/10a施用。

追肥2回：有機配合肥料で窒素：リン酸：加里=60:53:45kg/10a施用。

各項目において異文字間に5%水準で有意差有り（Tukey-Kramer法）。

いずれも主枝4本・側枝放任の整枝栽培。 収穫期間：令和5年5月23日～10月30日。 土壌は11月9日に採取。

3. 整枝技術について

(1) 整枝方法

‘ししわかまる’の基本的な整枝方法は、生育の良い枝を4本選んで誘引し、側枝は無整枝（主枝4本仕立て・側枝放任）とします（図2）。

7月中旬以降は、1.5m程度の高さに鉄管を設置し、誘引しなおします。

側枝は無整枝を基本としますが、主枝誘引後の6月末以降は内向きに伸びる枝（内向枝）が混みあい、受光不良の原因となるので、隨時除去します。

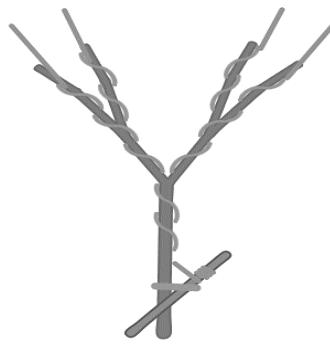


図2 主枝4本仕立て

(2) 規格別収量

主枝4本仕立て・側枝放任で栽培すると、無整枝で栽培するより、総収量はやや減少しますが、可販果収量は増加し、可販果率は80%以上に向上しました（図3）。

(3) 整枝に要する時間および収穫効率

整枝時間は、年間で130時間ほどかかりましたが、収穫時間は、無整枝に比べて年間で380時間ほど短くなりました（表2）。

また、整枝することにより収穫期後半の草高が高くなるため、収穫時の姿勢が楽になります（データ無し）。

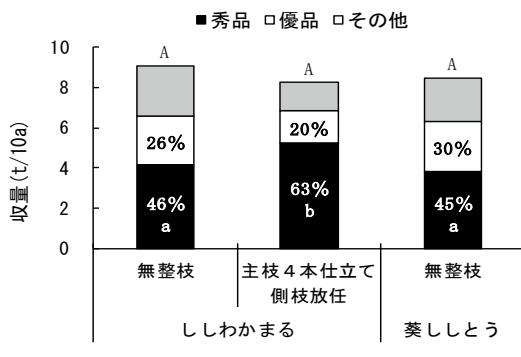


図3 整枝が規格別収量に及ぼす影響

収穫期間：令和4年5月27日～10月28日

アルファベット大文字は総収量、小文字は可販果（秀品+優品）収量において、異文字間に5%水準で有意差有り（Tukey-Kramer法）。数字は秀品率および優品率を表す。

表2 ししわかまるの仕立て方法が整枝時間や収穫時間に及ぼす影響

仕立て方法	年間整枝時間 ^z (時間/10a/年)	収穫効率 ^y (分/kg)	総収量 ^x (t/10a)	総収穫時間 ^w (時間/10a/年)
主枝4本・側枝放任	133	33.4	7.9	4393
無整枝	-	38.8	7.4	4774

1区3株で主枝4本・側枝放任は4区、無整枝は3区

z: 6月～9月の整枝に要した時間の合計から算出

y: 7～9月の収穫に要した時間（3株調査、9回実施）から算出

x: 調査期間は令和5年5月23日～10月30日 w: yとxから算出

4. まとめ

‘ししわかまる’栽培では、施肥量を窒素60kg/10a程度とし、主枝4本仕立ての整枝栽培にすることで収量や可販果率が向上し、慣行栽培の‘葵しとう’とほぼ同等の可販果収量、秀品率を得ることができます。

肥培管理は、緩効性肥料を用いる全量基肥施用か追肥1回施用を基本とし、緩効性肥料は肥効期間が長いプラスチックレス肥料（スーパーIBなど）を推奨します。

整枝方法は、主枝を4本に誘引し側枝放任を基本としますが、株の内側に伸びる枝や下に垂れる枝、わき芽を適宜除去します。こまめに整枝するほど作業時間は増えますが、収穫時の作業性は向上します。

本成果の詳細は、技術マニュアル「‘ししわかまる’高収益栽培のための肥培管理と整枝技術（露地トンネル栽培）」として農業試験場ホームページに掲載しています。



試験研究レポート

REPORT

‘紀州てまり’ のカキ灰色かび病の防除対策について

果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 大 谷 洋 子

1. はじめに

カキ灰色かび病は葉では淡褐色病斑、果実では黒色小粒点が形成される病害で、特に果実の症状が問題となります(写真1)。果実の黒色小粒点は、はじめ花に感染した病原菌 (*Botrytis cinerea*、糸状菌の一種) が果実に付着し、開花期から落弁期の連続した降雨によって果実への感染が促されることで起こります。

和歌山県オリジナル品種 ‘紀州てまり’ は本病の果実での発生が多いため、従来の品種以上の防除対策が求められます。そこで、有効薬剤の選定と防除時期を検討しました。



写真1 カキ灰色かび病
(左:葉の発病、中央:花弁の発病、右:果実の黒色小粒点)

2. 有効薬剤の選定

(1) 方法

2023年にかき・もも研究所内の ‘紀州てまり’ を供試して有効薬剤の選定を行いました。カキ灰色かび病に適用のある農薬の中から供試薬剤を選び(表1)、5月12日(満開期)に薬剤散布を行いました。5月26日に花について、6月9日に果実について発病の有無を調べ、発病花弁率及び発病果率を求めました。以下の式により防除価を算出しました。

$$\text{防除価} = 100 - (\text{処理区の発病率} / \text{無処理区の発病率}) \times 100$$

表1 供試薬剤

供試薬剤	有効成分	希釈倍数
ベルクート水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩 40.0%	1,000倍
フロンサイドSC	フルアジナム 39.5%	2,000倍
フルーツセイバー	ベンチオピラド 15.0%	1,500倍
フルーツガードWDG	ベンチオピラド 7.5% · キャブタン 70.0%	1,000倍
オンリーワンフロアブル	テブコナゾール 20.0%	3,000倍
ナティーポフロアブル	テブコナゾール 18.2% · トリフロキシストロビン 8.8%	2,000倍

供試薬剤	花弁			果実		
	調査数	発病花弁率 (%)	防除価	調査数	発病果率 (%)	防除価
ベルクート水和剤	119	3.8	88.5	143	25.9	40.6
フロンサイドSC	150	3.0	90.9	177	13.9	68.1
フルーツセイバー	150	6.0	81.7	185	14.1	67.7
フルーツガードWDG	150	6.3	80.7	164	24.1	44.7
オンリーワンフロアブル	150	5.7	82.8	169	18.4	57.7
ナティーポフロアブル	146	4.8	85.4	159	18.9	56.7
無処理	119	32.9		98	43.5	

2~3反復の平均

(2) 結果と考察

花の発病に対して供試薬剤はいずれも防除価 80.7 以上と高い効果が認められました（表 2）。果実の発病に対して、フロンサイド SC 及びフルーツセイバーは防除価がそれぞれ 68.1、67.7 と効果が認められました。他の剤は防除価が 40.6 ~ 57.7 でした。

以上のことから、フロンサイド SC 及びフルーツセイバーは力キ灰色かび病の防除薬剤として有望であると考えられました。しかしながら、これらの剤を散布した場合でも 14% 程度の果実に発病が認められたことから、より効果的な防除時期や防除回数を検討する必要があると考えられました。

3. 防除回数の検討

(1) 方法

2024 年に防除回数を検討しました。供試薬剤は 2 で効果が高かったフロンサイド SC とフルーツセイバーとしました。薬剤散布は①開花直前（5/11）、②満開期（5/14）、③開花直前（5/11）+ 開花終期（5/18）に行いました。6 月 10 日に果実における発病を以下の指標により程度別に調べ、発病果率及び発病度を求めました。発病度から防除価を算出しました。

発病指標：1 = 直径 5mm 未満の病斑が 1 ~ 2 個、2 = 1 より大きい発病

発病度 = Σ (指標 × 発病程度別果数) / (2 × 調査果数)

防除価 = $100 - (\text{処理区の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100$

(2) 結果と考察

フロンサイド SC の③は防除価が 86.2 と①や②の防除価に比べ高く防除効果が高いことが明らかになりました。フルーツセイバーも同様に③の防除効果が高いことが明らかになりました（表 3）。以上のことから、開花直前と開花終期に 2 回防除すると力キ灰色かび病の果実発病を低く抑えられると考えられました。

供試薬剤	希釈倍数	試験区	調査 果数	程度別発病果数			発病果率 (%)	発病度	防除価
				0	1	2			
フロンサイド SC	2,000倍	①開花直前散布	100	63	22	16	37.5	26.8	30.3
		②満開期散布	100	82	11	8	18.5	13.3	65.5
		③開花直前 + 開花終期散布	85	79	3	3	7.1	5.3	86.2
フルーツセイバー	1,500倍	①開花直前散布	91	70	13	9	23.6	16.5	57.1
		②満開期散布	89	72	8	10	19.7	15.2	60.5
		③開花直前 + 開花終期散布	100	90	8	2	10.0	6.0	84.4
無処理			98	49	22	26	49.8	38.4	

2~3 反復の平均

4. おわりに

‘紀州てまり’ の力キ灰色かび病の果実発病に対して、フロンサイド SC またはフルーツセイバーを開花直前と開花終期に 2 回散布すると防除効果が高いことが明らかになりました。今後、より効果の高い剤を探査するとともに本病の感染リスクが高い生育ステージを明らかにし、効果的で効率的な防除技術の確立を目指します。

試験研究レポート

REPORT

新たな消毒法「マイクロ MIX 法」の効果について

畜産試験場 生産環境部 部長 橋 本 典 和

1. はじめに

近年、国内において高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病の発生が全国的に続いており、畜産農家に大きな打撃を与えるだけでなく、畜産物の供給や価格に悪影響を及ぼしています。また、重篤な家畜伝染病以外にも慢性的に生産性を阻害するものもあり、様々な疾病の発生を防ぎながら家畜を飼養する必要があります。

畜産現場では、原因となる病原体の侵入を防ぐ様々な対策を日々行っており、このうち、「消毒」は最も重要な対策のひとつであり、簡便・安価かつ効果の高い消毒薬が求められています。一般的に畜産現場で広く活用されている消毒薬である「逆性石鹼」は、低温条件や有機物の混入等により効果が減弱することが知られています。今般、粒子径の小さい水酸化カルシウムと逆性石鹼を混合使用し、“相乗効果”により消毒を強化する方法「マイクロ MIX 法」を公益社団法人畜産技術協会の竹原一明氏が開発しました。

そこで、今回、マイクロ MIX 法の効果検証を行いましたので概要をお知らせします。

2. 研究の内容

畜舎出入口付近に長靴を消毒するために設置している踏込消毒槽への活用を想定し、コンテナに 2 種類の消毒薬（対照区：逆性石鹼のみ、試験区：逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウム）を作製し、有機物としてそれぞれの容器に濃度 1% となるよう豚の糞便を入れ、溶液中の細菌数を比較するとともに、試験区溶液を 3 日間室温で放置し、細菌のコロニー数と溶液 pH を調査しました。

また、より多くの有機物存在下における効果を確認するため、試験区の消毒薬に糞便を 2%、6% となるよう混入した後、細菌のコロニー数を測定しました。

なお、細菌数の測定には、食品・環境衛生検査用のフードスタンプを 2 種類（標準寒天培地、XM-G 寒天培地）用いました。

3. 研究の結果

対照区では、2 種類の培地で細菌のコロニー数が 100 以上となり、消毒薬の効果が有機物（糞便）により減弱しましたが、試験区では 2 種類の培地両方で検出限界以下となり、マイクロ MIX 法による相乗効果が発揮されました（図 1）。

試験区溶液を 3 日間放置したものでは、1、2、3 日後の 2 種類の培地全てで検出限界以下となり（図 2）、溶液の pH は強アルカリ性を維持していました（図 3）。

また、糞便濃度を 2%、6% と高めた場合、2% では検出限界未満、6% ではわずかにコロニーが確認されました。消毒薬の効果ありと判定できました（図 4）。

4. まとめ

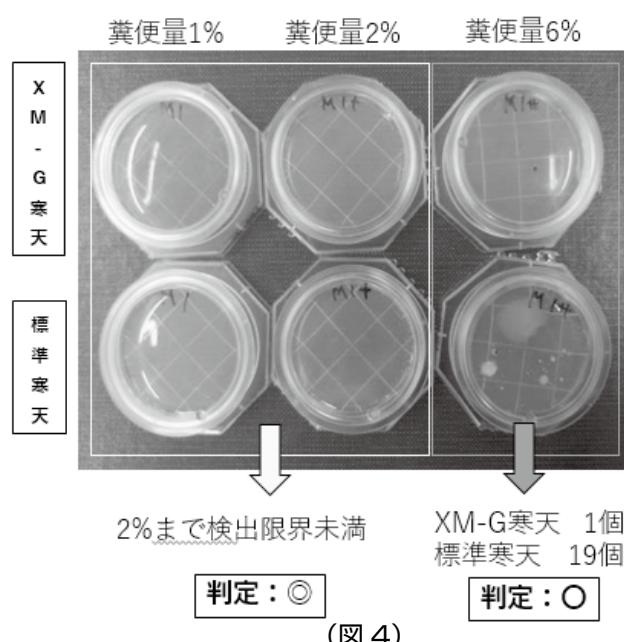
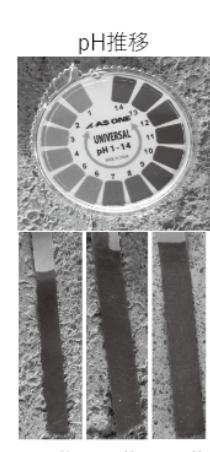
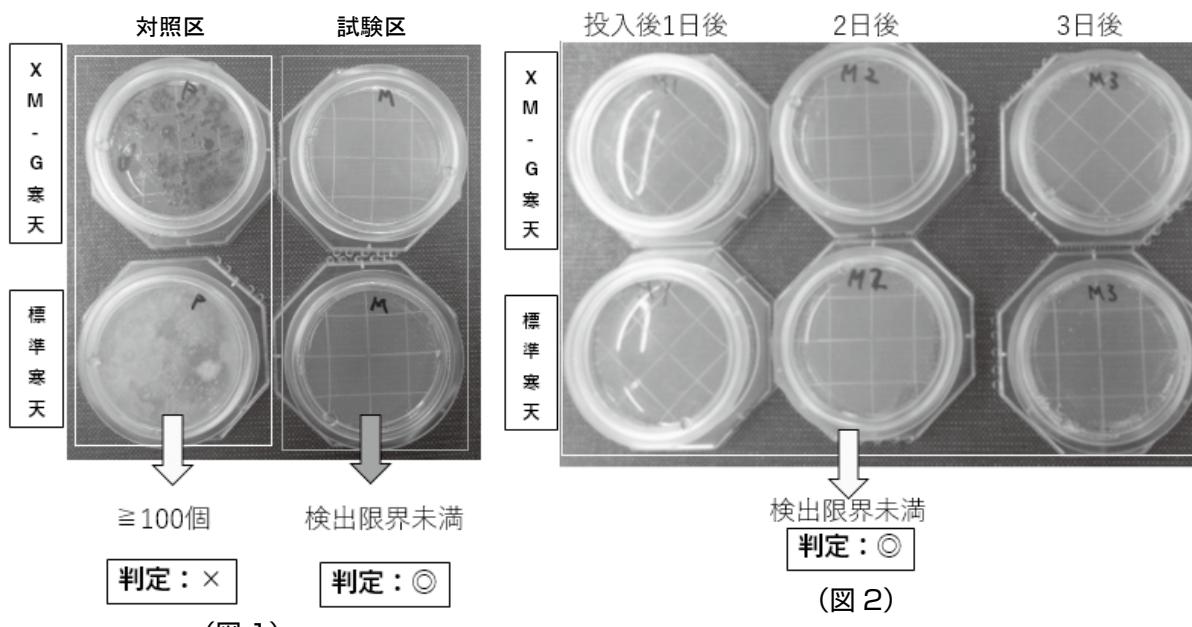
マイクロ MIX 法は、逆性石鹼の弱点である有機物存在下における効果を大幅に改善できることを確認できました。マイクロ水酸化カルシウムは安価であり、マイクロ MIX 法の消毒液は動力噴霧器でも使用することができるため、畜舎を含む農場全体の消毒に有用な方法の一つであると考えます。

今回の検証により、マイクロ MIX 法を踏込消毒槽に活用した場合、数日間の効果が期待できますが、最大の効果が出るように毎日消毒液を交換する必要があります。

マイクロ MIX 法は公益社団法人畜産技術協会の竹原氏により開発された技術です。

詳しい活用方法は畜産技術協会 HP よりご覧下さい。(https://jita.jp/test/archives/8258)

当該研究は全国地方競馬協会畜産振興事業を活用しました。



普及活動レポート

REPORT

若手生産者を中心とした いちご産地の再興に向けた取組

海草振興局 農業水産振興課

1. はじめに

海草地域では、和歌山市を中心にいちごの新規参入による栽培者が増加し、産地の担い手が若返ってきてています。現在、管内いちご生産者の約半数が栽培年数5年以下となっています。

いちご栽培は新規就農希望者から特に人気がありますが、育苗から収穫まで多くの管理作業があり、作りこなすのが難しい品目です。このことから、若手生産者の技術力向上を図り収量を確保することで、いちご産地を再興していくために、当課では重点プロジェクトとして令和6年から3年計画で取り組んでいます。今回のレポートでは、初年度の成果について報告します。

2. 取組の経過、活動内容と成果

(1) 炭そ病防除対策

当課では、重要病害の1つである炭そ病対策を農業者自身で取り組めるように、要点をまとめた資料を作成し、巡回時に配布しました。また、炭そ病感染株の早期発見ができるよう検定の実施について呼びかけ、生産者12名から持ち込まれた50検体について検定しました。

また、炭そ病に感染していない優良親株の採苗方法として、秋ランナー採苗研修会を農業試験場で開催し、12名の農業者が技術を学びました。

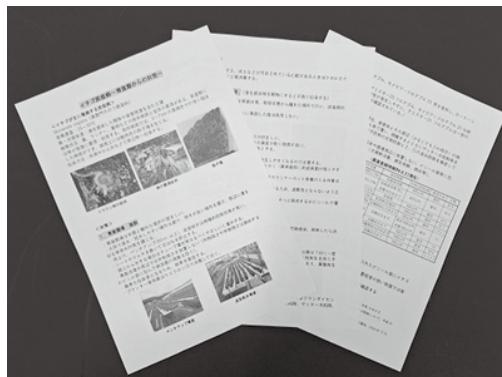
(2) 収量確保対策

近年は温暖化の影響により花芽分化の遅れが懸念されるため、適期定植にむけて花芽検鏡を3回、のべ20名62検体で実施しました。

また、環境制御技術の導入促進として、CO₂の効率的な活用についての研修会を秋ランナーの導入検討会と併せて開催しました。CO₂の施用方法や効果を学ぶことにより、これまでのCO₂発生装置導入農家は6戸となりました。



いちご炭そ病簡易検定



炭そ病対策資料

(3) 持続的な農業の推進

アブラムシなどの害虫は農薬への抵抗性が発達しやすく、化学農薬の使用回数削減が必要です。このことから、いちごのアブラムシを対象とした天敵（コレマンアブラバチ）導入実証ほを1か所設置しデータを収集するとともに、同ほ場で技術導入検討会を開催しました。この検討会へは6名の農業者が出席し、実際の導入ほ場での効果や導入方法について知識を深めました。



CO² 施用法の研修会

(4) 新規就農者の受入体制の確立

海南市に続いて、令和7年1月、和歌山市でも新規就農を希望する人を育成するための「和歌山市新規就農者受入協議会」が設立されました。この協議会は、和歌山市農林水産課が中心となり、和歌山県農業協同組合、和歌山市農業委員会、そして受入農家によって組織されています。当課はオブザーバーとしてこの活動に参画しています。

研修希望者は、年間カリキュラムに基づき和歌山市内の受入農家から研修を受けることができるほか、関係機関と相談しながら就農に向けた準備を整えることができます。

今後は、この協議会の活動を通じて、和歌山市の農業をけん引する担い手が増えることを期待しています。



花芽検鏡



天敵導入現地検討会

3. 今後の取組

炭そ病対策として、検定の実施と農家の意識向上への取組に加え、秋ランナー採苗技術の普及を進めます。

収量確保対策として、花芽検鏡による適期定植を促すとともに、CO² 発生装置の導入と CO² 濃度モニタリングを推進します。さらに天敵導入の実証ほ設置により導入農家を増やしていきます。

受入協議会にていちごで研修生を受け入れ、新規就農者の就農後支援を行っていきます。



和歌山市新規就農者受入協議会設立総会

普及活動レポート

REPORT

もも産地における新たな病害虫対策と 優良品種の育成

那賀振興局 農業水産振興課

1. はじめに

那賀管内は、県全体のもも栽培面積の76.1%を占める県内一のもも産地です。

しかし近年は、地球温暖化に伴う異常気象による作柄の不安定化や、特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの被害拡大など、もも栽培を取り巻く課題が顕在化しつつあります。

こうした状況を踏まえ、当課では、もも産地としての維持・発展を図るため、令和6年度から普及計画の一般課題として、「重要病害虫の発生抑制」と、「つきあかりの早期大玉果生産」を目指した調査や取組を進めています。



巡回調査



桃目揃え会での注意喚起

2. 特定外来生物クビアカツヤカミキリのまん延防止対策

(1) 被害状況と防除啓発について

那賀管内では、令和2年に岩出市、紀の川市で初めてクビアカツヤカミキリの被害を確認して以来、被害は年々増加傾向にあり、被害を受けた本数は、令和2年度：12本 令和3年度：25本、令和4年度：166本、令和5年度：259本、令和6年度：534本（113園地）となっています。

被害拡大を食い止めるため、JA、紀の川市、岩出市、かき・もも研究所、振興局等の関係機関で構成する「那賀地方病害虫防除対策協議会」（以下、協議会）で、情報共有するとともに、年間2回の巡回調査や被害確認のための悉皆（しっかり）調査を行っています。

また、新たな被害が発生した際には、現地確認や被害樹の中の幼虫の掘り取りなど、JA営農指導員と緊密に連携をとり、クビアカツヤカミキリの被害の早期把握と蔓延防止に努めています。

さらに、毎年地域全体に周知する事で、早期発見・早期対策につなげるため、岩出市と紀の川市の全世帯約53,000戸を対象に、防除啓発チラシを配布し、本害虫の特徴や見つけた際の対処法を周知しており、今年度は10月に全戸配布しました。



全戸配布チラシ（表面）



産卵阻止ネットを巻く様子



産卵阻止ネット



モデル園の説明看板

(2) 産卵阻止ネットのモデル園設置の概要

ももに対するクビアカツヤカミキリ被害を未然に防ぐ新たな方法として、かき・もも研究所において被害を受けていない樹体に、目合い 0.3mm のネットを隙間なく巻き付け、タッカーで直接固定することで、物理的に産卵を阻止する対策が発案されています。

この方法の効果を検証するため、令和 7 年 5 月に協議会主催で研修会を開催し、紀の川市内にモデル園 2 力所を設置しました。

1 力所はカイガラムシの発生している園地に処置しているため、ネットの被覆による影響も調査しています。今後は有効性が確認できれば、生産者向けの研修会等を通じてこの方法を普及する予定です。

3. ‘つきあかり’ の早期大玉果生産を目指した取組

那賀管内の 7 月中旬に収穫期を迎える、中生品種の主力品種は‘清水白桃’ですが、生理落果や変形果の発生が多く、せん孔細菌病にも弱いなど栽培管理が難しく、生産面積は減少傾向にあります。

一方で、近年、‘清水白桃’にかわる品種として、同時期に収穫できる黄肉系の‘つきあかり’の栽培面積が増加傾向にありますが、‘つきあかり’は若木期の果実サイズが大きくなりにくいことが問題となっています。

そこで、当課では、‘つきあかり’の早期大玉化の生産の実現に向けて、台木と穂木(つきあかり)の間に別の品種‘白鳳’を挟む、中間台苗木の効果を検証するため、紀の川市桃山町の現地ほ場で栽培試験を実施しました。その結果、現地ほ場の果実は平均 280g 程度に達し、比較対象とした、かき・もも研究所の中間台を使用しない‘つきあかり’より大きい値を示しました。ほ場の条件が異なるため、単純に比較はできませんが、中間台を導入することで、果実肥大効果が得られる可能性が示唆されました。

引き続き現地試験を継続し、JA やかき・もも研究所と連携しながら検証を進め、得られた技術や知見を生産者の皆様へ還元していく予定です。



現地圃場での調査



果実比較調査
(左: 中間台木なし、右: あり)

普及活動レポート

REPORT

重要害虫果樹カメムシ類 防除に対する取り組み

伊都振興局 農業水産振興課

1. はじめに

伊都地域は県下で最もかき栽培が盛んな地域ですが、かきを栽培する上で最も問題となるのが果樹カメムシ類（以下、カメムシ）の被害です。カメムシは他の害虫とは異なり、かき園地内で増殖するのではなく、スギやヒノキ林で増殖します。そしてカメムシの成虫は、山林に餌が不足すると餌を求めて周辺に拡散し、果樹園に飛来すると果実を吸汁・加害します。

したがって、かき園に『いつ』『どこに』『どのくらい』カメムシが飛来するのかを把握することが重要になります。

そこで、伊都地方農業振興協議会（各市町、JAわかやま紀北地域本部、NOSA I 北部支所、伊都振興局 農業水産振興課で構成）では、生産者のカメムシ被害軽減のため、これらの情報収集に努めていますので、その取り組みについて報告します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) カメムシの発生予察調査

『いつ』、『どこに』、『どのくらい』を知るため、下記調査を行っています。

○予察灯誘殺数調査

(7カ所)

○フェロモントラップ調査

(12カ所)

○越冬量調査

(山林 12カ所)



フェロモントラップ調査



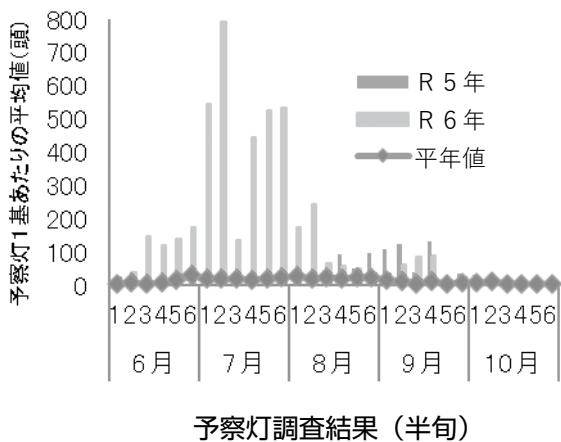
カメムシ被害果実



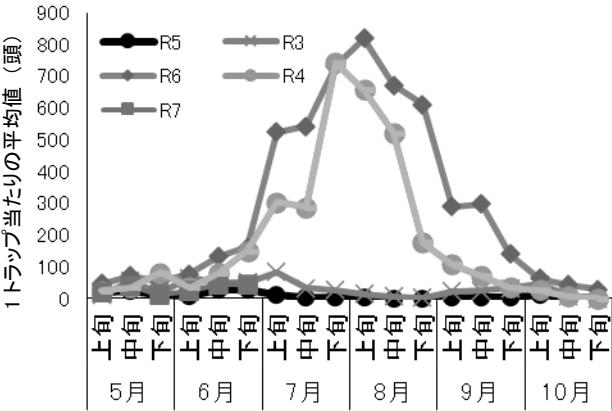
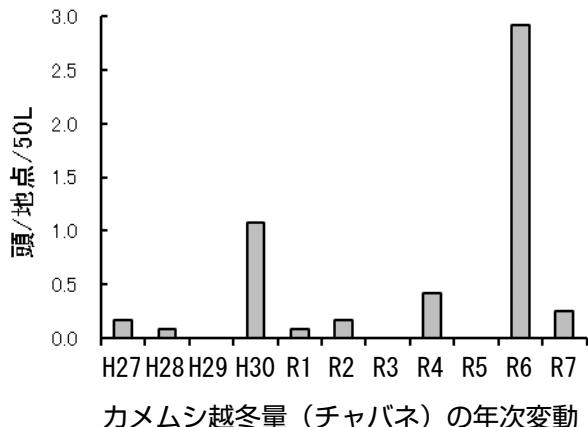
予察灯誘殺数調査



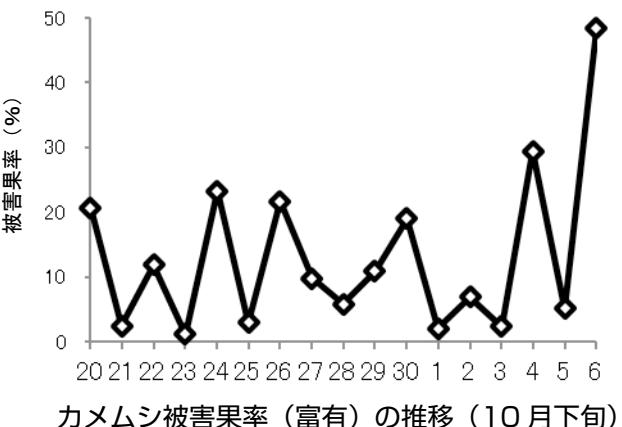
越冬量調査



予察灯調査結果（半旬）



フェロモントラップ調査結果



カメムシ被害果率（富有）の推移（10月下旬）

(2) カメムシによる被害果調査

現場での被害状況を把握するため、下記の調査を行っています。

○刀根早生：16 園地、平核無：13 園地、富有：16 園地

○7～10月、被害果率を調査

(3) 防除啓発、情報の発信

○調査した結果を関係機関で情報共有・生産者への指導に活用

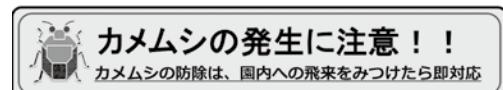
○ホームページに情報発信

→『伊都の柿データベース』で検索

○防除啓発チラシの発行

3. 今後の取り組み

増殖源となるスギやヒノキが存在する限り、カメムシによる被害はなくなりません。少しでも安定したかき生産につながるよう、今後も関係機関と協力し、調査・情報提供・防除啓発を続けていきます。



◎伊都地方(橋本市、かつらぎ町、九度山町)のチャバネアオカメムシの越冬量は、2.92頭(R6)と多く、平均: 0.29頭(H30～R5)の約10倍でした(図1)。
 ◎越冬成虫が多いと果実の被害も多くなる傾向があります。令和6年は多発すると予想されます。
 ◎越冬成虫によるモモ、スマモ、ウメ等各園への飛来も警戒必要です。
 ◎発生が認められた場合、JAの防除啓発参考に従って即ちに薬剤散布を行いましょう。
 ◎農業の使用基準(収穫前日数・使用回数等)を守りましょう(表1)。
 ◎殺虫剤の選用により、カイガラムシ類が増える恐れがあるので注意しましょう。

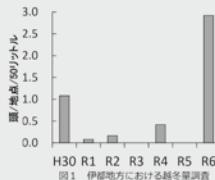


図1 伊都地方における越冬調査 (チャバネアオカメムシの頭数)
(チャバネアオカメムシの頭数)
(R3、R5は0頭)



表1 カキ栽培におけるカメムシ類の登録農業 (令和6年4月)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内
スタークト顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内
アーデントプロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内
アグロスリング水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内
ギックオフ顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内

※ギックオフ顆粒水和剤はジノテラブン(スタークト)、クロラントラニリプロール(サムコル)が含まれているので絶対使用回数に注意しましょう。

購入前や散布前に、最新の使用基準を確認しましょう。

伊都地方農業振興協議会果樹病害虫対策会議

構成機関：JA紀北かわくみ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、和歌山県農業共済組合、和歌山県果樹試験場かき・もも研究所、和歌山県伊都振興局

参考：令和6年度カメムシ防除啓発チラシ

普及活動レポート

REPORT

有田みかん産地 産地受入協議会を軸とした新規就農者の確保及び育成支援

有田振興局 農業水産振興課

1. はじめに

有田地域では、主要品目である温州みかんの生産量は 90,000t 前後で比較的安定して推移しているものの、販売農家数は 10 年間で 3,921 人から 3,040 人に減少し、65 歳以上の農業従事者が 55% 以上を占めるなど（2020 年農林業センサス）、農業者の減少と高齢化が進んでいます。今後、産地の生産力を維持するためには、新規就農者の確保及び育成が求められています。

そこで振興局では、新規就農者を確保するため、就農希望者に対して就農相談から農業研修の受入れ、研修後の定着支援までを一貫して行う産地受入協議会の体制整備・強化を支援しています。

また、新規就農者を対象とした技術研修会や交流会を開催するなど、早期に経営安定できるよう支援を行っています。

2. 活動内容と成果

(1) 受入体制の構築・強化

産地受入協議会は、市町、農業委員会、研修受入農家（後継者育成に意欲のある農業者）等で構成されており、就農希望者が効率的に栽培技術や経営知識を習得できるよう実践的な年間研修計画を備えるほか、農地や補助事業などの相談対応も行っています。

管内で最も早く令和 3 年度に設立された有田川町農業後継者受入協議会では、受入農家として 14 名 6 法人が参画しており、設立以降 3 名が研修を終了して営農を開始しました。

有田川町をモデルとして他の市町へも働きかけを行い、令和 6 年度には、管内すべての市町で産地受入協議会が設立され、就農希望者に対して関係機関が一体となって支援する体制が整いました。現在、3 か所の受入協議会で 6 名の研修生を受け入れています。

また、かんきつ以外の品目でも研修を行えるように各協議会へ働きかけを行った結果、有田市では、近年栽培希望者が多いいちごで受入農家の参画があり、研修が可能になっています。

(2) 新規就農者の確保と育成

ア 新規就農者の確保

産地受入協議会で研修を行っている研修生には、定期的に受入農家、市町を交えた面談を行って研修進捗状況の確認や研修終了後にスムーズに就農できるよう協議を行っています。また、研修終了後も営農状況を確認し、個別に必要な支援を行っています。

就農希望者に対しては、個別に相談を行っていますが、令和6年度は平日に就農相談に来られない方を対象に管内市町合同就農相談会を休日に開催し、2名の相談を受けました。

イ 新規就農者の経営安定と定着促進

新規就農者の主な栽培品目であるかんきつ栽培技術の向上を図るため、就農して5年目までの農業者を対象とした「アグリビギナー研修会」を開催しています。研修会では、温州みかんで卓越した栽培技術を持つ農業者として認定された「匠の技 伝道師」等を講師として招き、みかんの摘果やせん定、苗木の定植等の研修を行っています。この研修を通じて、匠の高度な栽培技術や知識に触れ、経営の向上につなげてほしいと考えています。他にも、各種セミナーや研修会等について情報提供を行い、参加を促しています。



就農相談

また、近年、みかんの収穫等の季節労働をきっかけとして、有田地域に移住して就農する人が増加しており、産地受入協議会で研修を受けている人もいます。このような1ターン就農者や就農予定者の交流を目的として昨年度に研修会を開催したところ、対象者23名のうち17名が参加されました。新規参入者の定着を促進するため、技術的な支援に加えて、仲間づくりや地元農家と繋がる機会が得られるような研修会等の場を提供していきます。



「匠の技 伝道師」によるせん定講習会



1ターン研修会

3. 今後の取り組み

令和6年度は、有田管内すべての市町で産地受入協議会が設立され、関係機関が連携して就農希望者をサポートする手厚い体制ができました。引き続き、協議会を中心として関係機関が連携し、研修終了後に円滑に就農できるように支援するとともに、就農後は早期に経営を軌道に乗せられるよう技術研修会等の開催や各種支援策の情報提供を行っていきます。

普及活動レポート

REPORT

クビアカツヤカミキリの防除対策について

日高振興局 農業水産振興課

1. はじめに

クビアカツヤカミキリ（写真1）は、中国、韓国、台湾等の東アジアが原産で、もも、すもも、うめ及びさくら等のバラ科樹木に産卵し、幼虫が樹の内部を食害して枯死させる特定外来生物です。日高地方においても令和5年5月に初めて被害を確認して以降、被害が拡大し、生産現場では危機感が高まっています。

ここでは、現在の被害状況と関係機関の取り組み、防除対策について紹介します。



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫
(写真：かき・もも研究所)

2. 日高地方の推進体制、被害樹の発生状況

（1）日高地方の推進体制

日高地方では、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（構成員：日高管内各市町、JAわかやま紀州地域本部、果樹試験場うめ研究所、日高振興局（農林水産振興部農業水産振興課、林務課、健康福祉部衛生環境課））において、当該害虫の発生監視の啓発、発生状況調査等を実施しています。特に発生状況調査については、5月～7月と10月～1月の年2回、発生地域では悉皆調査を、未発生地域では定点調査を実施し、早期発見に努めています。

（2）被害樹の発生状況

日高地方では、令和5年5月に御坊市のさくらで被害樹を確認し、その後の調査で、同市内のうめ園地で被害を確認しました。また、同市内だけでなく近隣の町にも被害が拡大し、令和5年7月には日高川町のうめ及びももで、令和5年9月には由良町のももで、令和6年12月には美浜町のさくらで被害樹を確認しました。その後の調査においても被害は拡大しており、令和7年7月末で、日高地方の農地のうめ、すもも及びもも等で293本、農地以外のさくら等で56本の被害を確認しています。

3. クビアカツヤカミキリ防除対策実証事業について

当該害虫の被害拡大を防止するため、令和7年度から御坊市で、標記事業を実施しています。内容は、6月下旬から約2週間おきに3回薬剤防除を実施したほか、物理的防除として産卵抑制ネットの被覆（写真2）

や産卵抑制蛍光塗料を塗布し、今後、効果の検証を行う予定です。

4. 防除対策

(1) 幼虫の掘り取り・捕殺（3月下旬～11月）

株元だけでなく樹幹下の足下にも注意しながらフラスを探し、フラスを見つけたら、マイナスドライバーや針金を用いて食入孔中の幼虫を捕殺してください。針金の先端を曲げておくと刺殺した幼虫を取り出したり、刺殺した幼虫の体液が付着するので確認に有効です。また、スプレー型の薬剤を食入孔に噴射することもおすすめします。

(2) 被害樹へのネット被覆（5月～8月）

成虫の分散や健全樹や他園地への被害の拡大を防ぐため、目合い4mm以下のネットを用いて、二重で被覆してください（写真3）。

(3) 収穫後の防除（6月下旬～8月）

成虫の密度を減らすため、登録のある農薬を3回程度散布してください。なお、成虫は見つけ次第捕殺します。

(4) 被害樹の伐採・伐根又は根覆い（9月～翌年4月）

成虫が飛び出さない時期に伐採し、伐根できない株元は、目合い4mm以下のネット（二重）とブルーシートで覆い、周辺にマルチ押さえ等を用いて密閉してください。

一つのみの方法で防除することは困難です。（1）～（4）の方法を組み合わせて防除してください。

5. おわりに

これまでの取り組みにより、クビアカツヤカミキリの被害とその早期対策の重要性について、周知しているところですが、今後は新たな被害がどこで発生してもおかしくない状態です。皆様には成虫が発生する6月～8月に薬剤防除を実施するなど今回の紙面で紹介した対策の実施と今まで以上の園地の見回りによる被害の発見に努めていただき、被害の進行を食い止めていただくようお願いします。



写真2 産卵抑制ネットの被覆状況



写真3 成虫飛散防止ネットの設置状況

普及活動レポート

REPORT

うめの超省力枝梢管理技術と 低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持

西牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

西牟婁地域の基幹作物であるうめは、冬期の気象条件により作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっています。また、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、産地を維持していくためには、重労働かつ多くの労力を必要とする収穫やせん定等の管理作業を大幅に軽減させる技術の導入が必要です。

このため、主力品種である「南高」の生産安定と省力化を目的として、結果枝を増やす摘心処理に低樹高化（ムカデ整枝、カットバック処理）を組み合わせた技術の導入について重点課題として取り組んでいます。



摘心講習会（上富田町岡）

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 摘心による超省力枝梢管理技術確立

①春季摘心処理の講習と現地実証

うめ「南高」の摘心処理による着果安定及び作業省力化を目的に、4月21日田辺市新庄町、25日上富田町岡、5月1日田辺市上芳養、5月9日田辺市秋津川の実証において講習会を開催し、摘心栽培に関心のある生産者52名とJAわかやま紀南地域本部の営農指導員5名が参加しました。

講習会では充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介・実演しました。

電動バリカンにより効率よく処理するための留意点として、水平気味に一振りで効率よく摘心処理ができるよう、亜主枝等の背面には立枝を少なくすることをポイントとして伝えました。



実証園でJA営農指導員と共に夏季バリカン処理（上富田町岡）



収量調査（田辺市三栖）

参加者からは「作業が1本あたり10分以内で終わり、秋のせん定が楽になるので導入したい。」との感想がありました。

収穫期には田辺市下三栖及び上富田町岡の実証において、収穫調査を実施しました。田辺市下三栖は6月5日、6日に行い、1樹当たり収量は約162kgで前年比1.3倍、上富田町岡は6月12日に実施し、1樹当たり収量は82kgで慣行樹に比して2倍以上の収量となり、摘心処理の効果が認められました。

②夏季摘心の追加処理

電動バリカン使用による夏季の摘心処理を6月19日に田辺市下三栖、7月1日に上富田町岡で実施しました。

春季に摘心処理した樹の徒長枝発生本数は、慣行樹の半分程度となり、秋季のせん定作業が軽減されるなど一定の省力効果が認められています。

今回、さらに枝梢管理作業の大幅削減に向け、徒長枝の発生を極力少なくすることを目的に、春季の摘心後に伸長した新梢を夏季の摘心処理として電動バリカンによりせん除しました。

18～9年生の一樹当たりの処理に要した時間は、電動バリカン処理に約7～10分でした。また、せん除了枝の重量は一樹当たり約3～5kgと少量でした。

今後、樹勢や落下放置したせん除枝の様子を確認する予定です。

(2) 低樹高コンパクト整枝の導入推進

①ムカデ整枝

幼木のコンパクト整枝法として、平成23年度より関係機関とともにムカデ整枝現地実証に取り組んでいます。ムカデ整枝樹は低樹高かつ樹容積がコンパクトであるため、管理作業の省力化並びに計画密植と摘心処理の追加により早期成園化につながることが確認できました。

現地普及に向け、実証園を活用した栽培講習会や優良園地の視察研修等を継続的に実施しており、令和6年度で導入面積1.1ha、実践農家8戸と徐々に拡大しています。



ムカデ整枝導入園（田辺市新庄町）

②カットバック処理

成木の収穫等の管理作業の省力化に向け、樹高を切り下げるカットバック処理が注目されています。令和6年度は、摘心処理と併せた講習会を2地域で実施し、導入面積は1.0haとなりました。今年度も講習会を実施し、導入面積を徐々に拡大していきます。

3. 今後の取り組み

摘心処理では、夏季の摘心処理の有無によるせん定作業に要する時間、せん除了枝重量の調査及び秋季の徒長枝発生程度と樹勢の確認を行い、一連の枝梢管理労力の大幅軽減に向けた技術の確立を目指します。

また、摘心処理やカットバック処理、ムカデ整枝の現地普及を加速化させるため、技術指導者（JA指導員等）の育成を図るとともに、カットバック処理では請負グループの育成にも取り組んでいく予定です。

普及活動レポート

REPORT

いちご産地の維持活性化 やる気のある産地づくり

東牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

当課では、令和6年度からの3ヶ年、普及指導計画の重点プロジェクトとして「いちご産地の維持活性化 やる気のある産地づくり」に取り組んでいます。

みくまの産地協議会（構成：JAみくまの、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町、新宮市、農業水産振興課（オブザーバー）、以下産地協議会）は、令和2年に設立され、新規就農希望者が農業の基礎知識と技術を習得できる体制を構築していますが、就農希望者の状況にマッチしたよりきめ細やかな支援が必要となっています。また、令和5年にいちごジャムの加工グループが高齢化のため廃業となり、後継グループの確保が求められています。これらの課題を解決するため、いちご新規就農プログラムによる受入推進、新規就農者の確保及び育成、栽培管理及び品質向上対策の支援、新たな加工グループへの継承及び育成を図ることにより、産地の拡大と所得の向上を目指します。

2. 取り組みの経過

(1) いちご新規就農プログラム（みくまの産地提案書）による受入推進

- ・みくまの産地協議会の活動支援 研修内容検討及び産地協議会活動内容の検討 10回
- ・U・Iターン就農相談フェア出展 3回 就農相談者 延べ4名

(2) 新規栽培者の確保及び育成

- ・新規就農相談 2名 延べ3回
- ・新規就農定着支援（就農後5年間目途） 6名 延べ43回

(3) 栽培管理及び品質向上対策の支援（主要病害虫防除の徹底）

- ・現地検討会（栽培技術） 4回 延べ47名
- ・イチゴセミナー（炭そ病、花芽分化確認） 3回 延べ27名
- ・先進地視察 1回 8名
- ・栽培環境整備（耐風性ハウス、高設栽培施設及び省力化機器）の導入推進

(4) 新たな加工グループへの継承及び育成

- ・NPO太田の郷へ加工品開発の推進
- ・JA女性部会への機運の醸成



みくまの産地協議会での就農相談

3. 活動の成果

(1) いちご新規就農プログラムによる受入推進

現在、JAトレーニングファームでの研修生はいないが、いちご新規就農プログラムを改訂し、U・Iターン就農相談フェアに活用しました。

(2) 新規栽培者の確保及び育成

2名（うち1名は就農支援センター社会人課程で研修）が4月に串本町高富地区で就農したが、ハウスの完成が遅れ、営農活動に影響が出ており、栽培管理指導等のフォローを行いました。

定着の支援として育苗や病害虫防除の指導や高設栽培装置の導入を推進した結果、平均的な収量で順調に推移し、新規栽培者を主に4名が増収しました。

栽培面積は、現状維持の1.3haとなっています（図1）

(3) 栽培管理及び品質向上対策の支援（主要病害虫防除の徹底）

生産者の約7割でハダニの天敵農薬を導入し、研修会を通じて利用技術が向上している。現地検討会やイチゴセミナーを通して栽培管理技術の向上が図られ、令和6年の出荷数16,491ケースとなり、令和5年と比べ9.3%増加しました。

栽培環境整備では、県補助事業を活用し、串本町の生産者1戸が耐風性ハウス0.14ha導入、延べ導入面積0.73haとなりました。また、串本町の生産者1戸が高設栽培装置を0.14ha導入、延べ導入面積が0.79haとなりました。さらに、新宮市の生産者1戸が省力化機器（成型機）を導入しました。

(4) 新たな加工グループへの継承及び育成

新たな加工グループの掘り起こしに取り組み、NPO太田の郷が候補として浮上し、試行錯誤の結果、パウチパックいちごジャムの商品化に成功しました。

また、JAみくまと連携を図り、新たな加工グループ確保のためJA女性部会を対象にイチゴジュース等を試作し、機運を醸成しました。

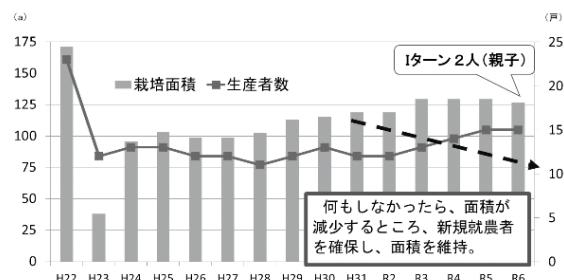


図1 イチゴ栽培面積及び生産者数の推移
※吹き出しへは、直近の新規イチゴ栽培者数



栽培状況の検討



いちごジャム

4. 今後の取り組み

みくまの産地協議会と連携し、新規栽培者の確保・育成に引き続き取り組んで行きます。また、経営の安定化を図るため、関係機関と連携して栽培管理及び品質向上対策の推進に取り組みます。

地域の逸品 !!

和歌山市山東地区の特産「たけのこ」

紹介者

和歌山市 指導農業士
數 利 昭

和歌山市の北東部に位置する山東地区は昔からたけのこの産地として知られています。

この地は赤土の土質で水はけがよく、たけのこの成育に最適な環境であることに加えて、親竹を5年サイクルで更新しながら風通しがよくなるよう間引いたり、「裏止め」という摘心作業などをしながら収穫期まで手間暇をかけて管理することで、アクが少なく、柔らかく上品な風味を持つたけのこが育ちます。

1. 商品の紹介

たけのこは3月中旬頃から5月中旬頃までが収穫期となっており、生のたけのこはこの時期に地域の直売所などでたくさん販売されます。

また、山東のたけのこを使った水煮を昔ながらの製法にこだわって作られている方もおり、FOOD HUNTER PARK 道の駅 和歌山 四季の郷（産直棟）で販売されています。

和歌山市山東地区が誇る、たけのこをぜひ一度ご賞味ください。一口食べれば、きっとその違いに気づくはずです。

※たけのこの水煮の販売は6月から8月頃までとなっております。

(在庫がなくなり次第販売終了)



山東産たけのこ

2. お問い合わせ先等

FOOD HUNTER PARK 道の駅 和歌山 四季の郷 産直棟（水の市場）

〒 640-0305 和歌山市明王寺 479-1

TEL : 073-499-4370



産直棟（水の市場）

地域の逸品 !!

体にやさしいこだわり品質 “高野山麓精進野菜”

紹介者

橋本市 指導農業士
坂 口 佳 弘

真言宗の宗祖である空海が開創した「高野山」。かつて山内での耕作が禁じられていたため、高野山の麓の地域で作られた農産物が高野山に奉納され、江戸時代から昭和40年代まで精進料理の食材などとして参詣者や高野山の人々の暮らしを支えてきました。

この風習から、橋本市がブランディングした野菜が「高野山麓精進野菜」です。



高野山金剛峯寺へ
高野山麓精進野菜を奉納

1. 商品の紹介

「高野山麓精進野菜」は『歴史・伝統』、『安全・安心』、『おいしさ』にこだわっています。24品目の野菜を対象に、化学肥料を慣行の5割以上削減、化学農薬を慣行の3割以上削減した独自の栽培基準を設け、毎年2回の「目揃え会」で設定した品質基準を満たした野菜が「高野山麓精進野菜」として販売用シールの添付が可能になります。

「高野山麓精進野菜」は以下の店舗で購入またはお召し上がりできます。

- ファーマーズマーケットやっちゃん広場
- ベジフェス（まっせ・はしもと）
- 橋本魚市場 いこら市（毎月第4日曜日）
- 高野山別格本山 清浄心院 等



販売用シール



高野山麓精進野菜

2. お問合せ先

高野山麓農産物産地化協議会

〒648-8585 橋本市東家一丁目1番1号

橋本市経済推進部 農林振興課内

TEL : 0736-33-6113

FAX : 0736-33-2175

地域の逸品 !!

松葉の堆肥で育てる「松野菜」

紹介者

美浜町 地域農業士

田 浩 秀 樹

美浜町には、日本名百松選にも選ばれた「煙樹ヶ浜の松林」があります。幅は約 500 メートル、長さ 4.5 キロメートルに及ぶ近畿最大の規模を誇る大松林は、見事な松林として景観を保ち、美浜町周辺を潮害や風害から守り続けています。しかし、生活様式の変化によって利用されなくなった松葉が堆積し、松の生育に影響を及ぼすなど問題となっていました。こうした中で、煙樹ヶ浜松葉堆肥ブランド研究会では、未活用のバイオマスである松葉を堆肥として活用した取り組みを行っています。松葉堆肥を利用した農産物を「松野菜」としてブランディングすることで、松林の保全と地域農業の活性化を目指しています。

1. 商品の紹介

現在は松きゅうり、松とまと、松いちごの3品目が松野菜として栽培されています。

松きゅうりはパリッとした食感とみずみずしさ、爽やかな香りとほろ苦さなどきゅうり本来のおいしさをしっかりと味わうことができます。

松とまとは肉厚で糖度が高くトマトが苦手なお子様でもおいしく食べられます。

松いちごは完熟するまでじっくりと育てることで、高い糖度と大きさを両立しています。



まっすぐきれいに育った
「松きゅうり」



半年間発酵させた
「松葉堆肥」

2. お問い合わせ先等

さわやか日高

日高郡日高町荊木 5

TEL : 0738-63-1333

地域の逸品 !!

なんたん蜜姫（さつまいも）

紹介者

串本町 地域農業士
中正司 ちか子

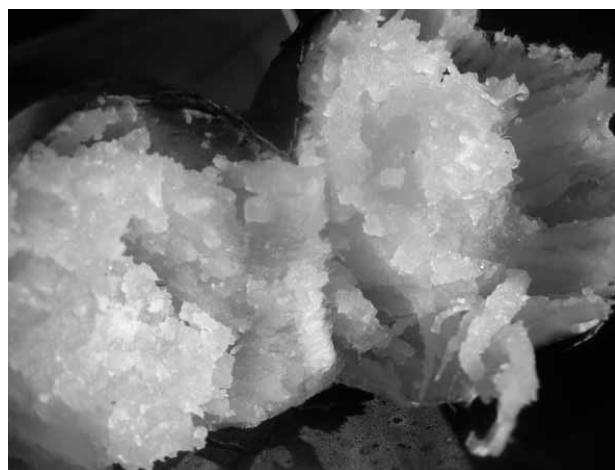
本州最南端に位置する串本町では、温暖な気候を利用し昔からさつまいも栽培が行われていました。その中で果肉が鮮やかな黄色でしっとりとした食感を持ち、非常に甘いさつまいもが「なんたん蜜姫」（JAわかやま紀南地域本部の商標登録）と名付けられました。

1. 商品の紹介

燐々と降り注ぐ太陽と海のミネラルたっぷりの潮風を受けて育った串本のさつまいも「なんたん蜜姫」は驚くほどの甘さです。お薦めは焼き芋で、低温で長時間かけて焼くとより濃厚でしっとりとした舌触りで非常に甘味が出ます。また、干し芋にしても美味しいです。



なんたん蜜姫「箱入り」



焼き芋の状態

2. お問い合わせ先等

JAわかやま 紀南地域本部

〒 646-0027

和歌山県田辺市朝日ヶ丘 24-17

TEL : 0739-25-4611

<https://www.ja-kinan.com>

県からのお知らせ

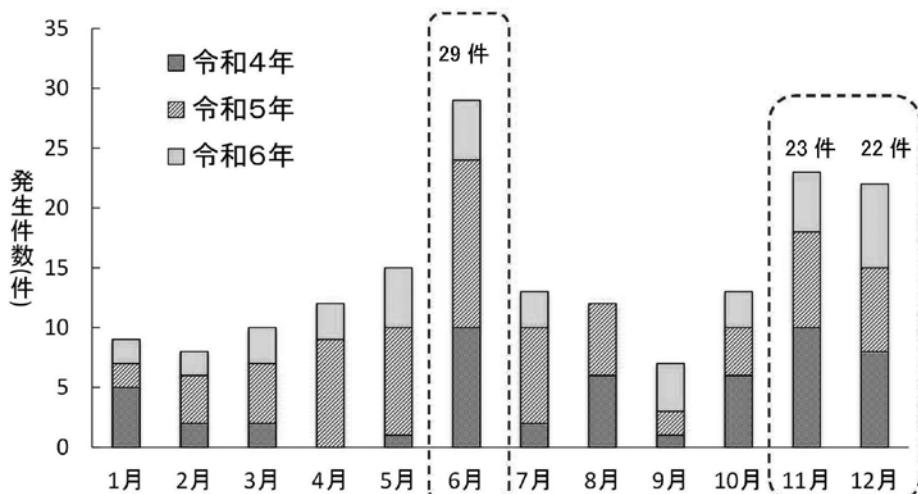
農業者の皆様へ

農作業事故にご注意を！

和歌山県内の農作業事故の実態

収穫期での発生が多い

過去3年間の労災保険の休業補償対象事故をみると、収穫期にあたる6月（うめ）と、11～12月（みかん、かき等）で多発しています。

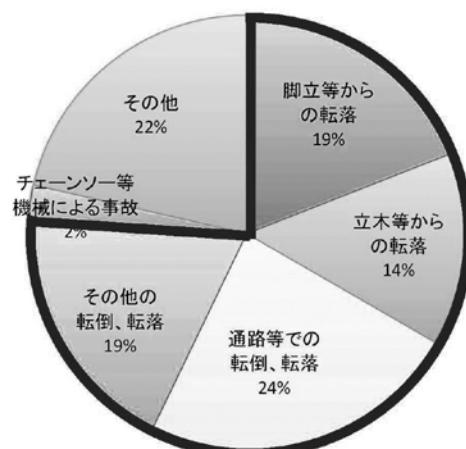


労災保険における休業補償対象事故の発生状況（令和4～6年）

『転落』と『転倒』が多い

令和6年の労災保険休業補償対象事故内容をみると、原因の過半数が、脚立・立木などからの転落や、通路等での転倒です。傾斜地の多い果樹園での収穫やせん定作業時は、特に注意が必要です。

また、チェーンソーや運搬機等の機械による事故も発生しているので注意してください。



労災保険における休業補償対象事故内容の内訳（令和6年）

和歌山県・JAわかやま・NOSA | わかやま・和歌山労働局

県からのお知らせ

農作業事故防止のチェックポイント

①作業計画はゆとりをもって

- 無理のない作業計画を立てましょう。
- 疲れが溜まる前に休憩を取りましょう。

②作業前に準備と確認を

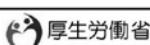
- 園内道の除草や危険箇所の確認を行い、障害物を取り除いておきましょう。
- 機械の点検・整備や安全装置の確認を行いましょう。
- 事前に作業内容や行き先を必ず家族に伝えるようにしましょう。万一に備え、携帯電話は常に身につけるようにしましょう。

③作業は慎重に

- 脚立使用時は、足場が不安定でないか確認の上、不意に脚が開かないようチェーンをかけ、天板には乗らないようにしましょう。また無理な体勢での作業とならないよう、脚立をこまめに移動させましょう。
- 乗用農機は急な操作を避け、周囲を確認して安全運転を心掛けましょう。
- チェーンソーの使用時は防刃、防振効果の高い手袋を着用し、細心の注意を払いましょう。

万が一に備え、労災保険や共済への加入をおすすめします

労災保険特別加入制度

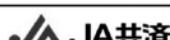


労働者と業務の実情などが同様の場合、一定の方について特別に任意加入を認めており、労働者に準じた業務又は通勤^{*}による負傷、疾病、障害、死亡に対して保険給付が行われます。

* 通勤災害の場合は、中小事業主等に限ります。

【お問い合わせ先】 TEL073-488-1102
和歌山労働局総務部労働保険徴収室適用係

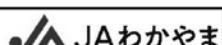
農作業中傷害共済



本人はもちろん親族や雇用した方が農作業中に死亡や負傷された時に共済金をお支払いします。

【お問い合わせ先】 最寄りのJA窓口へ
(25309990210)

農作業機械の安全使用を JAわかやま徹底しましょう



「慣れ」や「気の緩み」は重大な事故を招きかねません。農業機械の使用には、取扱説明書や安全のしおりなどを十分にお読みいただき、適切な使用に努めてください。

【お問い合わせ先】 最寄りのJA農機センターへ

農機具損害共済



不慮の事故（火災・盗難・衝突等）や自然災害（台風・洪水・土砂崩れ等）に遭遇した場合、補償の対象になります。

【お問い合わせ先】 最寄りの農業共済組合へ

和歌山県・JAわかやま・NOSAIわかやま・和歌山労働局

県からのお知らせ

すべての農業者の皆さまへ

収入保険



相模原PRキャラクター
「きいちゃん」

に加入しませんか？

収入保険があなたの農業経営をサポートします！

すべての農産物を対象に、

自然災害や価格低下などあらゆる収入減少のリスクに対応します。

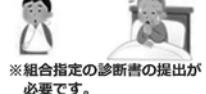
自然災害や鳥獣害で収量が下がった



自然災害で作付不能になった



ケガや病気で収穫ができない

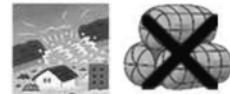


※組合指定の診断書の提出が必要です。

市場価格が下がり収入が減少



倉庫が浸水して売り物にならない



盗難や運搬中の事故



取引先が倒産



想定外の事故で収入が減少



青色申告の実績がなくても加入できます！

収入保険は青色申告の農業者を対象とした農業保険です。

過去に青色申告の実績がなくても、令和7年分の青色申告承認申請書を提出されている方であれば加入いただけます。

※白色申告の方は、農業経営を守る保険として農業共済制度もありますので、詳しくはNOSAIまでお問い合わせください。

お問い合わせは最寄りのNOSAIまで

安心のネットワーク
NOSAIわかやま

本所

〒640-8331
和歌山市美園町5-1-1 和歌山県JAビル5F TEL **073-436-0771**

収入保険について
詳しくはごちら

北部支所

管轄区域：和歌山市・海南市・海草郡・岩出市・紀の川市・橋本市・伊都郡
〒649-6531 紀の川市粉河681-2 TEL **0736-73-6724**

収入保険



中部支所

管轄区域：有田市・有田郡・御坊市・日高郡（印南町・みなべ町を除く）
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅1696-3 TEL **0737-63-5121**

NOSAI全国連 NOSAIわかやま



南部支所

管轄区域：印南町・みなべ町・田辺市・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡
〒646-0027 田辺市朝日ヶ丘24-10 TEL **0739-22-0833**



和歌山県は農業経営を守るため、収入保険や農業共済の加入を推進しています。

(2025.5)

県からのお知らせ

令和8年度 和歌山県農林大学校農学部 学生募集！

和歌山県の農業に活力を与え、地域リーダーとして活躍できる人材を育成する農林大学校。

令和8年度の農学部の入学試験を下記のとおり行います。



※) 詳細は募集要項で必ずご確認下さい。

学科	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期） ※一般入学試験（前期）で定員を満たした場合は実施しません。
入学定員	園芸学科：30名	アグリビジネス学科：10名
修業期間	2年	
試験日	令和7年11月26日（水）	令和8年3月3日（火）
受験資格	高等学校を卒業、または令和8年3月までに高等学校を卒業見込みの者（詳細は下記まで問い合わせて下さい）	
試験科目	1 筆記試験 ①必須科目 小論文、数学Ⅰ、現代の国語及び言語文化 ②選択科目 生物基礎、化学基礎、農業と環境の3科目から1科目を選択 2 面接試験 農業、社会常識 など	
出願期間	令和7年11月7日（金） ～11月14日（金）	令和8年2月9日（月） ～2月16日（月）
合格発表	令和7年12月3日（水）	令和8年3月6日（金）
試験場所	農林大学校 農学部	
提出書類	ア 入学願書 〈本校指定用紙 別紙1～3〉 ※県外に住所を有する者は和歌山県農林大学校志望調査書〈本校指定用紙 別紙2〉も提出のこと イ 最終学校の卒業証明書 ウ 最終学校の調査書、または成績証明書 エ 健康診断書 〈本校指定用紙 別紙4〉 オ 履歴書（市販のもの） カ 写真2枚（うち1枚は「ア入学願書」へ貼り付けること） キ 返信用封筒2枚（宛先を明記し、封筒1枚につき460円分の切手を貼り付け） ※令和8年3月卒業見込みの者は、イ、オは不要	

問い合わせ先

和歌山県農林大学校農学部

〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降 422

TEL : 0736-22-2203 FAX : 0736-22-7402

ホームページアドレス

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/nourindaigaku/index.html>

（募集要項はホームページからダウンロードできます）



HPへアクセス！

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士（65歳まで）」「地域農業士（65歳まで）」「青年農業士（40歳まで）」の3つの区分がある。

令和7年4月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士 105名（うち女性 14名）

地域農業士 533名（うち女性 55名）

青年農業士 79名

合 計 717名（うち女性 69名）



表紙の人

広川町指導農業士

竹中 宏さん

竹中さんは農地中間管理事業を活用して農地を借り上げ、自作園地と合わせて温州ミカン173a、晩柑類40a、水稻165aを栽培するなど、地域の遊休農地解消に寄与しています。

また、AQマル南選果場の生産部長や現在広川町農業士会の会長を務めるなど、地域農業の発展に貢献されています。

和歌山の農業士 第25号

発行日：令和7年11月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：株式会社 協和



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

